

**平成 28 年度やんばる観光連携推進事業  
実施報告書  
(概要版)**

**平成 29 年3月  
北部広域市町村圏事務組合**



# 目次

<b>序章 事業の概要</b> .....	1
1. 事業の目的.....	1
2. 業務の全体像.....	2
3. 業務の実施体制.....	3
<b>第1章 連携の仕組みづくり</b> .....	4
1-1. 市町村副長・観光担当課長・観光協会等関係団体代表合同会議の開催.....	4
(1) 目的.....	4
(2) 実施概要.....	4
(3) 成果と課題.....	6
1-2. 連携プロジェクトの創出.....	7
(1) 目的.....	7
(2) 実施概要.....	9
(3) 成果と課題.....	19
<b>第2章 情報集約・発信</b> .....	20
2-1. 情報サイトの充実強化.....	20
(1) 目的.....	20
(2) 実施概要.....	20
(3) 成果と課題.....	23
2-2. 情報拠点の充実強化.....	24
(1) 目的.....	24
(2) 実施概要.....	24
(3) 成果と課題.....	27
<b>第3章 観光プロモーション</b> .....	28
3-1. 観光フェア出展.....	28
(1) 目的.....	28
(2) 実施概要.....	28
(3) 成果と課題.....	31
3-2. 農商工連携フェア「やんばるほおばるカーニバル」の開催.....	33
(1) 目的.....	33
(2) 実施概要.....	33
(3) 成果と課題.....	34
<b>第4章 経済効果分析</b> .....	35
4-1. 調査の目的.....	35
4-2. 調査概要.....	35
(1) 産業連関表による経済効果分析.....	35
4-3. 調査結果.....	35
(1) 平成27年度沖縄県観光実態調査による北部地域入域客の分析.....	35
(2) 観光消費額の推計と北部地域における経済効果分析.....	35

<b>第5章 事業効果と今後の展開</b> .....	<b>43</b>
5-1. 今年度の成果と課題 .....	43
5-2 今後の展開 .....	45
(1) 観光を取り巻く動向 .....	45
(2) 今後の課題 .....	46
(3) 今後の取組み方針 .....	47
(4) 今後の展開 .....	48
<b>平成28年度 委員名簿</b> .....	<b>50</b>

# 序章 事業の概要

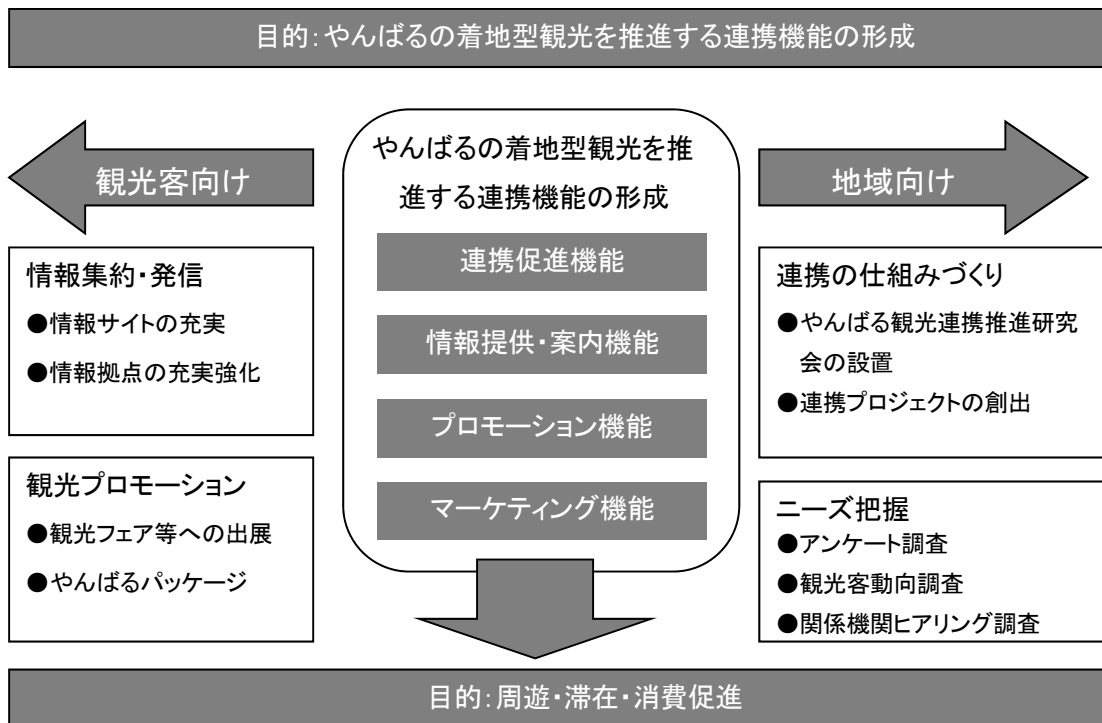
## 1. 事業の目的

やんばる地域には、美ら海水族館や西海岸リゾート施設など集客力のある観光施設等がある一方で、周辺地域には誘導できていない現状がある。やんばる地域の多様で魅力ある潜在的な観光資源は、観光客への認知度は低く、観光客の動向が偏っている状況にある。

本事業では、観光連携体制を構築することにより、観光客の「周遊・滞在・消費」の促進を目標として進めてきた。

目標に向けては、地域の資源を活かした受地主導の着地型観光商品をつくり、観光客向けの情報集約発信、観光プロモーション、連携の仕組みづくり、ニーズ把握調査の4つを柱に広域的に取組み、それを推進する連携機能の形成を目的とする。

図表 本事業「やんばる観光連携推進事業」における目標



周遊促進効果の目標 ⇒ やんばる地域に訪れる観光客が増加

滞在促進効果の目標 ⇒ 北部での滞在時間が延長

消費促進効果の目標 ⇒ 北部での消費促進

## 2. 業務の全体像

本事業は、やんばる観光の連携体制の創出を目的として平成 24 年度よりスタートした。

平成 24 年度は、連携のあり方についての議論を中心として課題と目標、将来像を示してきた。

平成 25 年度は引き続き検討を続けながら、連携の仕組みづくり、情報集約・発信、観光プロモーションについては仕組みづくりの実証を一部進めながら、ニーズに関する調査も行ってきた。

平成 26 年度は、やんばる観光連携推進研究会を設けるとともに東海岸をモデルとした連携プロジェクトや情報集約発信、観光プロモーションについてそれぞれプロジェクトチームを作って実践・運用に移してきた。ニーズ調査については観光動態調査、インバウンド調査などを行った。

平成 27 年度は、やんばるを 5 つのエリアに分け、それぞれの特徴を活かした連携プロジェクトを行うとともに、情報集約・発信、観光プロモーションについては、ニーズ調査を参考に戦略的な運用を図ってきた。また、これらの仕組みを継続するための連携体制について検討した。

平成 28 年度は、5 つのエリアプロジェクトを事業化に向けた取組みとしていくとともに、情報サイトや案内コーナーの自立に向けた検証、サポーター拡大、観光プロモーションとして海外向け、農商工連携の取組みを行った。ニーズ把握については、地域の大学と連携してやんばる地域経済における観光産業の位置づけについての分析を行った。

図表 事業の全体像

平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
WG、懇談会、協議会	WG、懇談会、協議会、連絡会、ワークショップ	協議会(副長会)	協議会(副長会)	合同会議(副長・課長等)
<b>○課題の抽出</b> ・連携の場 ・情報共有 ・情報発信 ・ニーズ把握  <b>○目標</b> 連携により.. ・滞在促進 ・消費拡大  <b>○将来像</b> やんばるの観光の多様性と個性がもつ奥深い魅力が広がっていく観光地へ	<b>1連携の仕組みづくり</b> ・コーディネーター配置 ・ワークショップの開催 ・連携プロジェクトの検討	<b>1連携の仕組みづくり</b> ・研究会の設置 ・東海岸連携プロジェクト実施	<b>1連携の仕組みづくり</b> ・研究会の開催 ・連携プロジェクト実施(5エリア)	<b>1連携の仕組みづくり</b> ①合同会議の開催 ■実証事業の継続、準備室の設置 ②連携プロジェクトの創出 ■プロジェクトの事業化に向けた支援
	<b>2情報集約・発信</b> ・情報サイト制作 ・情報拠点の設置	<b>2情報集約・発信</b> ・情報サイトの充実強化 ・情報拠点の充実強化 ・ガイドマップ製作(多言語)	<b>2情報集約・発信</b> ・情報サイトの充実強化 ・情報拠点の充実強化 ・多言語ツール製作	<b>2情報集約・発信</b> ①情報サイトの充実強化 ■自立運営の検証、サポーター拡大 ②情報拠点の充実強化 ■自立運営の検証、サポーター拡大
	<b>3観光プロモーション</b> ・観光フェア出展 「やんばる」全体の売込	<b>3観光プロモーション</b> ・発地側、着地側での観光フェア出展 ・スタンプラリー開催 ・やんばるパッケージ制作 ・やんばる観光イメージ映像制作	<b>3観光プロモーション</b> ・観光フェア出展(東京) ・スタンプラリー開催 ・やんばるバッグ制作	<b>3観光プロモーション</b> ①農商工連携フェア開催 ■農商工と連携したやんばるイベント開催 ②観光フェア出展 ■連携プロジェクトのPR ③インバウンド向けプロモーション ■海外市場向けのフェア出展
	<b>4ニーズ把握</b> ・「やんばる」のイメージやニーズ把握	<b>4ニーズ把握</b> ・観光客動態調査(夏季) ・インバウンドニーズ調査	<b>4ニーズ把握</b> ・観光客動態調査(通年)	<b>4ニーズ把握</b> ①地域大学と連携した経済効果分析 ■やんばる地域の観光産業に関する経済効果分析 ②H29 年度以降の展開

### 3. 業務の実施体制

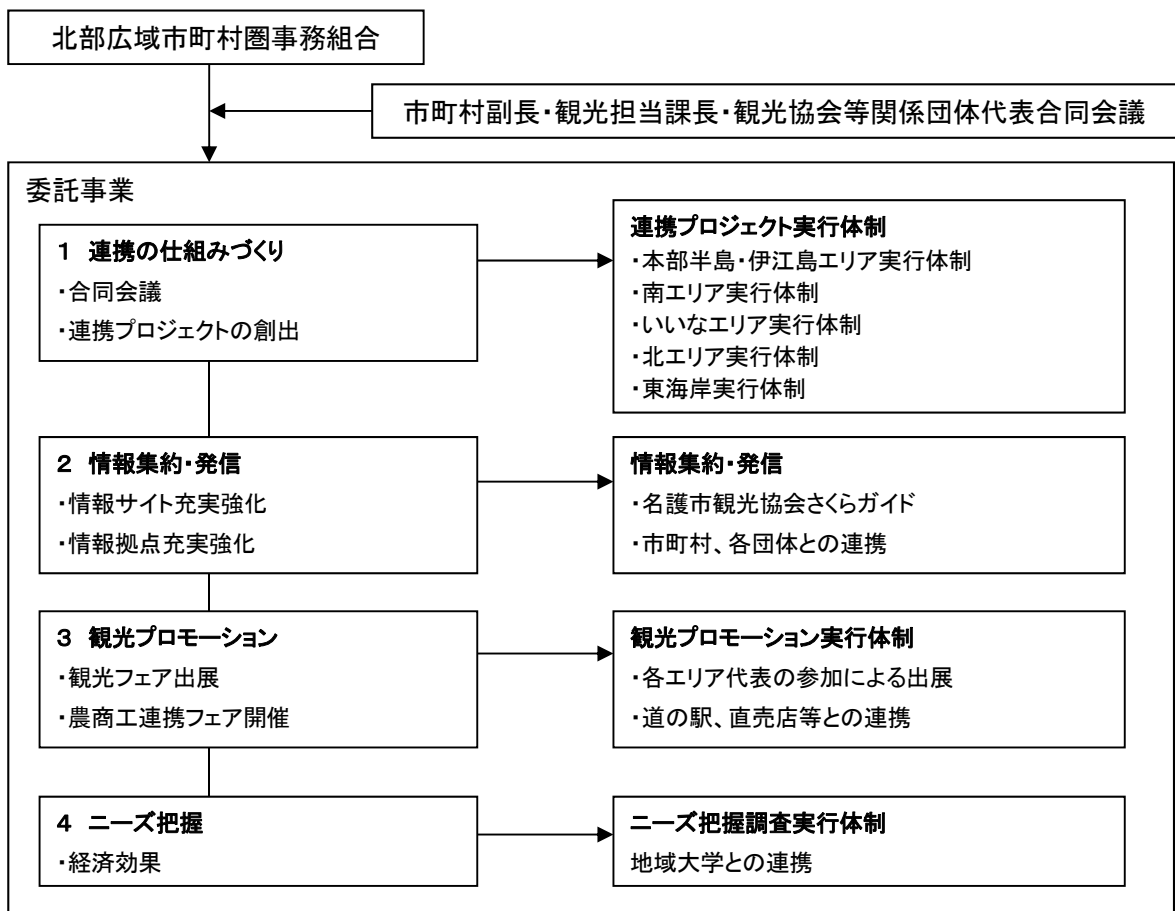
本事業の実施体制は、まず北部広域市町村圏事務組合を事業主体とする。

平成 24～25 年度は「協議会」、「懇談会」、5 つの「ワーキンググループ会議」、「ワークショップ」などを設けて連携に関する検討を進めてきた。

平成 26 年度からは「協議会」を意思決定機関としつつ、各市町村の観光担当課、観光団体等で構成する「研究会」を設けて連携に関する検討を続けるとともに、各実証事業では関係する観光団体等によるプロジェクトチームを設け実践してきた。平成 27 年度も引き続き研究会、協議会を設けて事業を進めた。

今年度は、「(仮称)やんばる観光市町村等連絡協議会」の設立に向け、北部広域市町村圏事務組合の構成市町村の副長、観光担当課長、観光協会並びに関係団体をメンバーとする会議を実施した。

図表 平成 28 年度実施体制



※それぞれの会議の名称を以下のように言う。

- ・やんばる観光連携推進事業懇談会（有識者、関係団体の長で構成、H24,25 年度開催）以下「懇談会」という。
- ・やんばる観光連携推進ワーキング・グループ（テーマ（①交通サイン②イベント・観光 PR③花と緑④スポーツコンベンション⑤観光人材育成）に応じた知識経験者等で構成、H24,25 年度開催）以下「WG」という。
- ・やんばる観光連携推進事業協議会（12 市町村副長で構成、H24～27 年度開催）以下「協議会」という。
- ・やんばる観光連携推進研究会（市町村観光担当課及び観光関連団体で構成、H26,27 年度開催）以下「研究会」という。

# 第1章 連携の仕組みづくり

## 1-1. 市町村副長・観光担当課長・観光協会等関係団体代表合同会議の開催

### (1) 目的

本事業は、北部広域全体の広域的な連携体制を構築することを目的としている。

平成 24 年度は WG、懇談会、協議会を設置し、平成 25 年度からは市町村観光担当者の連絡会を設けるとともに、特定メンバーのみならず多くの観光関係者の意見を聴取できるよう、ワークショップを開催してきた。これまで各会議において、連携に関するアイデアや施策が出され、WG、懇談会は当初の目的を果たしたものと平成 25 年度で終了した。

平成 26 年度からは新たに「やんばる観光連携推進研究会」(以下、「研究会」という)を設置し、連携体制について検討を進めてきた。平成 27 年度は、引き続き研究会を開催し、DMO(※) 専門家の招聘などを通して連携体制の具体化を図った。

また、平成 28 年度は、「(仮称)やんばる観光市町村等連絡協議会」(以下、「連絡協議会」という)の設置について合意形成を図るため、構成市町村の副長ならびに観光担当課長、観光協会及び関係団体の合同会議を行った。

※DMO(Destination Marketing/Management Organization の略) :

観光地域づくりの舵取り役として、関係者と連携し、①関係者の合意形成、②マーケティングに基づく戦略策定、③関係者が実施する観光関連事業と戦略の整合性に関するマネジメントを行う法人

### (2) 実施概要

#### ① 参加団体

今年度は、これまで開催してきた協議会(市町村副長)並びに観光担当課長、観光協会並びに関係団体により、やんばる観光連携推進事業に係る副長・観光担当課長並びに観光協会等関係団体代表合同会議(以下「合同会議」という)を行った。

市町村	副長	担当部局	観光協会・観光関係団体
名護市	副市長 (座長)	商工観光課	公益財団法人名護市観光協会
		羽地支所	一般社団法人羽地ネットワーク
国頭村	副村長	企画商工観光課	国頭村観光物産(株)
大宜味村	副村長	企画観光課	NPO法人おおぎみまるごとツーリズム協会
東村	副村長	企画観光課	NPO法人東村観光推進協議会
今帰仁村	副村長	経済課	一般社団法人今帰仁村観光協会
本部町	副町長	商工観光課	一般社団法人本部町観光協会
恩納村	副村長	商工観光課	一般社団法人恩納村観光協会
宜野座村	副村長	観光商工課	一般社団法人宜野座村観光協会
金武町	副町長	産業振興課	一般社団法人金武町観光協会
伊江村	副村長	観光商工課	一般社団法人伊江島観光協会
伊平屋村	副村長	総合推進室	伊平屋島観光協会
伊是名村	副村長	商工観光課	一般社団法人いぜな島観光協会



## ②開催経緯

合同会議では、平成 28 年度に進めているエリア別の連携プロジェクト、情報集約・発信、プロモーション等の進捗状況を共有しながら、「やんばる観光市町村等連絡協議会」の設立について検討を行った。

第 1 回目終了後は、観光庁より「(仮称)日本版 DMO について」説明があった。

表 やんばる観光連携推進事業に係る副長・観光担当課長並びに観光協会等関係団体代表合同会議

開催経緯	開催概要
<b>【第1回合同会議】</b> 日時:平成28年11月24日(木) 11:00~12:30 場所:北部会館 会議室 3F	参加対象:副長・観光担当課長並びに観光協会等関係団体代表 説明・報告:①事業概要説明 ②進捗状況報告 議 題:「やんばる観光市町村等連絡協議会」について ①協議会設立イメージについて ②協議会設置要綱について 開催方法:事務局説明及び意見交換 ※会議終了後「(仮称)日本版DMOについて」観光庁より説明
<b>【第2回合同会議】</b> 日時:平成29年1月31日(火) 11:00~12:30 場所:北部会館 会議室 3F	参加対象:上に同じ 説明・報告:①進捗状況報告 議 題:「H29年度以降の展開」について ①協議会設立と事業内容について(資料2) ②協議会設置要綱について(資料3) 開催方法:事務局説明及び意見交換
<b>【第3回合同会議】</b> 日時:平成29年3月3日(金) 11:00~12:30 場所:名桜大学 北部生涯学習推進センター 会議室	参加対象:上に同じ 説明・報告:①進捗状況報告 議 題:「H29年度以降の展開」について ①平成29年度以降の計画について(資料2) ②協議会設置要綱(案)について(資料3) 開催方法:事務局説明及び意見交換 ※会議終了後に、内閣府・観光庁・沖縄県より感想・アドバイス等

## 平成 28 年度のアウトプット

「やんばる観光連携推進事業に関わる副長・観光担当課長並びに観光協会等関係団体代表第 3 回合同会議」における確認事項

平成 29 年度以降 (仮称) やんばる観光市町村等連絡協議会設立準備会の設置・運営 (合同会議で承認)

連絡協議会では、引き続きエリア支援、情報発信、プロモーションを実施し、やんばるのブランディングを行う。

### (3)成果と課題

#### ①事業の成果

- 「(仮称)やんばる観光市町村等連絡協議会」(以下、「連絡協議会」という。)について12市町村の観光行政、観光団体が共通認識を持ち、設置に向けて準備会を発足することとなった。
- 今後も連絡協議会により、エリアの取組みを支援するとともに、情報発信、プロモーション等、やんばる地域全体で連携してPRを図ることとなった。

#### ②今後の課題

- 連絡協議会準備会により、連絡協議会の設置に向けて、設置目的、役割、事務局業務、市町村や観光協会(その他団体)の役割分担、エリアとの関係性などを明確にしていく必要がある。
- 「やんばる地域」は継続的にPRを図っていく必要がある。WEBサイト、案内コーナーなどについて継続しながら、その効果について追跡調査していく必要がある。
- これまでの調査で得られた観光ニーズに応じた対策を施していく必要がある。
- 連絡協議会の運営財源については市町村の財政負担を伴わない自立的な運営を図ることが求められている。これまでに行った実証事業について、収益の仕組みを実践しながら財源を生み出す必要がある。
- 国や県、沖縄観光コンベンションビューロー、その他関係団体との協力体制を作っていく必要がある。
- 国が進めるDMOに関する研究、その他支援制度などの活用も検討しながら、財源の確保や収益の仕組みづくりを図っていく必要がある。
- 現在は連携プロジェクトチームとしてエリアを括っているが、今後はエリアを跨いでの連携も柔軟に検討していく。

## 1-2. 連携プロジェクトの創出

### (1) 目的

沖縄観光はリピーターが8割を超えており、フリープランや個人旅行の占める割合が増加している。平成24年度から平成25年度の検討では、従来通りのメジャーな観光施設の周遊型観光ではなく、やんばる地域の多様な魅力を活かした着地型観光メニューの造成などが提案されてきた。

平成26年度においては、東海岸地域の5市町村(名護市、国頭村、東村、宜野座村、金武町)を先行モデルとして関係団体で東海岸プロジェクトチームを組成し、「大人の民泊」をテーマとしたモニターツアー受入れを実施してきた。これと並行して行われた平成26年度の研究会では、やんばるの観光連携体制づくりは、すぐに12市町村全体の連携を考えるのではなく、エリア別から進めるという方向性が示され、各エリアでの連携プロジェクトを企画した。

平成27年度は、平成26年度に企画した各エリアの連携プロジェクトを実証事業として行った。連携プロジェクトの実施は、市町村の枠を越えた連携プロジェクトに取り組むことで、相互理解や協力体制の醸成を図るとともに、連携プロジェクトを実際に継続的な取り組みとしていくことを目的として実施した。

平成28年度は、平成27年度より行ってきた各エリアのプロジェクトチームに代表窓口団体を設定し、企画会議を行いながら、プロジェクトのブラッシュアップと事業化に向けた広告宣伝、専門家招聘、旅行社訪問やPRイベント出展などの営業活動を行った。

表 連携プロジェクトの創出

実施目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ エリア別連携体制の醸成</li> <li>・ エリア別連携プロジェクトの事業化</li> <li>・ エリア連携体制の自立化</li> </ul>
実施時期	・ 各エリアの企画に基づく (※次ページ以降各エリアの実施内容参照)
実施主体	各エリアの連携プロジェクトチーム
対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 本部半島・伊江島エリア (名護市、本部町、今帰仁村、伊江村)</li> <li>② 南エリア (恩納村、宜野座村、金武町)</li> <li>③ いいなエリア (伊是名村、伊平屋村、今帰仁村)</li> <li>④ 東海岸エリア (名護市、国頭村、東村、宜野座村、金武町)</li> <li>⑤ 北エリア (国頭村、大宜味村、東村)</li> </ul>
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>①プロジェクト事業化推進のための広告宣伝</li> <li>②専門家招聘</li> <li>③エリア代表による営業活動 (旅行社周り、PR イベント出展等)</li> <li>④受入等</li> </ul> <p>※各エリアプロジェクトのテーマに応じて実施</p>



## (2)実施概要

### 【本部半島・伊江島エリア】

連携プロジェクト名称	アウトドアスポーツ推進プロジェクト
関係市町村	名護市、本部町、今帰仁村、伊江村
市町村（担当部局名）／ 関連団体名	名護市商工観光課、羽地支所、本部町商工観光課、今帰仁村経済課、 伊江村商工観光課  公益財団法人名護市観光協会、一般社団法人本部町観光協会、一般社 団法人今帰仁村観光協会、一般社団法人伊江島観光協会、一般社団法 人羽地ネットワーク
代表窓口団体	一般社団法人羽地ネットワーク

#### 【平成 28 年度の実施内容及び成果】

##### 【平成 28 年度実施内容】

- ①ジャパンエコトラック(JET)登録
- ②モンベルフレンドエリア登録
- ③PR パンフ製作  
⇒JET ロゴ入り公式パンフ
- ④フレンドフェア出展
- ⑤専門家招聘説明会（モンベル社）
- ⑥モンベル SEA TO SUMMIT ツアー開  
催（2/24～26 実施）

##### 【H28 年度の成果】

- スマートリゾート協議会設立（予定）  
⇒本部町観光協会、今帰仁村観光協会、伊  
江島観光協会、羽地ネットワークによる  
協議会設立が予定されている。
- ツアー販売の協力体制  
⇒アウトドアメーカー(株)モンベル社や地  
元企業とつながり、今後の販売や PR の  
協力体制が創出された。

#### 【今後の課題】

- スマートリゾート協議会設立の実現、自立的運営に向けた取組み、協賛企業の拡大
- 地元業者の受入れ体制の拡大、フィールド利用の共通認識(ルールづくりなど)
- ツアーの商品化、販売体制、販路の確保



- 専門家（モンベル社）説明会
- ・第1回 11/29 行政、観光協会
  - ・第2回 12/21 事業者説明会  
参加者 30 団体 37 名



- フレンドフェア出展
- ・モンベル社が開催しているフレ  
ンドフェア大阪 2016 への出展  
11/5.6 実施

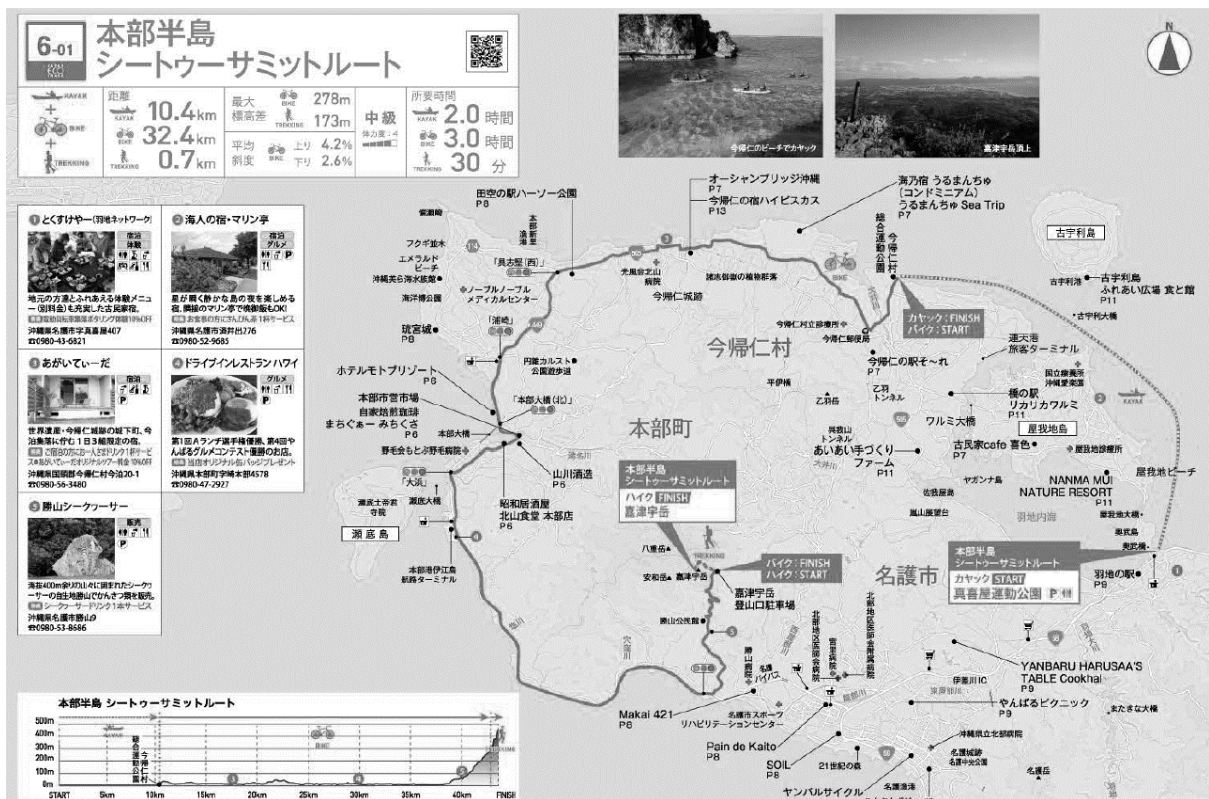


- 沖縄 本部半島 SEA TO  
SUMMIT ツアーの開催
- ・2/24～26 実施  
済井出・半島・嘉津宇岳コース

表 沖縄やんばる本部半島 SEA TO SUMMIT ツアー3days 行程概要

	1日目	2日目	3日目
朝食		屋我地島内民宿	本部町内ホテル
午前	各自で那覇空港へ	【SEA TO SUMMIT ツアー】 ■カヤックツアー出発 済井出海岸～今帰仁村民の浜 ■自転車ツアー出発 今帰仁総合運動公園～	■フリータイム ・自転車レンタル ・伊江島渡航 (今回は悪天候のため伊江島渡航者はいなかった)
昼食	各自	本部町内	
午後	那覇空港集合 送迎車で移動 屋我地到着 チェックイン ■フリータイム開始 ・自転車：古宇利島 ・カヤック試乗：済井出	■自転車ツアー 本部町～嘉津宇岳駐車場 ■登山 嘉津宇岳山頂	フリータイム終了 路線バスで那覇空港へ 那覇空港 解散
夕食	ウェルカムパーティー	ホテル夕食	
宿泊	屋我地島内民宿	本部町内ホテル	

図 本部半島 シートゥーサミットルート



## 【南エリア】

連携プロジェクト名称	女子スポーツ誘致プロジェクト
関係市町村	恩納村、宜野座村、金武町
市町村（担当部局名）／ 関連団体名	恩納村商工観光課、宜野座村観光商工課、金武町産業振興課、一般社団法人宜野座村観光協会、一般社団法人恩納村観光協会、一般社団法人金武町観光協会
代表窓口団体	一般社団法人宜野座村観光協会

### 【平成 28 年度の実施内容及び成果】

#### 【平成 28 年度実施内容】

##### ■映像制作

- ・ 3 町村 PR 映像制作「女子旅」をテーマ

##### ■共有グッズ制作（エコバック）

- ・ 3 町村の PR ツールとして制作

##### ■観光キャラバン 2/21～23

- ・ 昨年度招聘旅行社（西鉄旅行社）や、その他旅行社（東武トップツアーズ、HIS、JAL、JTB、近畿日本ツーリスト、日本旅行等）向けに商品化の要請

#### 【H28 年度の成果】

##### ■PR ツール

- ⇒ 3 町村の PR 映像やエコバックを今後の共通の営業活動ツールとして活用する。

##### ■旅行社との協力関係

- ⇒ 今後 3 町村のツアーを事業化していくため旅行社との協力関係が築けた。

#### 【今後の課題】

- 金武町・宜野座村の認知度が低いいため 3 町村連携強化を図り、旅行商品の告知や観光客に合わせた商品造成を行う。



##### ■企画会議の開催

- ・ 昨年度のプロジェクト実施に引き続き、エリア連携による企画会議を行った。



##### ■旅行社訪問

- ・ 昨年度の招聘旅行社（西鉄旅行社）を始め、3 町村女子旅の商品化要請を行った。

図 3町村女子旅ツアー企画内容

## 女子旅 in SOUTH やんばんる 初日

**午前** リゾート地恩納村へGO! **ランチ** 地元食材を生かした料理を提供!

宿泊施設  >>> 

**午後** 恩納村の自然や歴史・体験を楽しむ! **夜** 恩納村を楽しませナイト!

隠れ処スポット紹介  >>>  >>> 

サンセット・サップヨガ  
サンセットSUPヨガ  
Sunset SUP YOGA

## 女子旅 in SOUTH やんばんる 二日目

**午前** 宜野座村へGO! **ランチ** タラソ

 >>> 

**午後** かなな散歩 ▶▶リラクゼーション **夜** 金武町を楽しませナイト!

## 女子旅 in SOUTH やんばんる 三日目

**午前** 金武町へGO! **ランチ** 長楽

 >>> 

**日中** カヌー体験やまちあるき (プラン調整可能)



## 【いいなエリア】

連携プロジェクト名称	いいな（伊是名・伊平屋・今帰仁）連携ツアー推進プロジェクト
関係市町村	伊是名村、伊平屋村、今帰仁村
市町村（担当部局名）／ 関連団体名	伊是名村商工観光課、伊平屋村総合推進室、今帰仁村経済課、一般社団法人いぜな島観光協会、伊平屋島観光協会、一般社団法人今帰仁村観光協会
代表窓口団体	一般社団法人今帰仁村観光協会

### 【平成 28 年度の実施内容及び成果】

#### 【平成 28 年度実施内容】

- エリア内の映像制作
  - ・ 3 村の魅力を伝える映像制作
- 専門家招聘
  - ・ 田中淳一氏「映像による情報発信」の講演会開催(2/6～9)
- 東京プロモーション
  - ・ 東京 JR 恵比寿駅構内で PR 活動を行った。(2/28)

#### 【H28 年度の成果】

- PR 映像
  - ⇒ 専門家を招聘し、地域の魅力再発見と、映像制作の視点と活かし方についてプロデュースを行った。
  - ⇒ 地域色を活かした PR 映像を制作。今後の営業活動ツールとして活用する。
- 3 村での PR 活動実績
- 恵比寿駅構内で PR することで、訴求する内容が確認できた。

### 【今後の課題】

- PR 映像等により今後も 3 村の魅力を発信し、知名度向上を図る。
- エリアの連携体制で、地域の PR を促進、企画するツアーの販売を促進。



#### ■ 専門家招聘 2/6～9

- ・ 映像の専門家（田中氏）の視点から地域の魅力の再発見、映像の活かし方等の指導を受け、それぞれの地域の魅力を話し合うことにより、他の地域にはない独自の魅力を再確認することができ、3 村ならではの PR 動画が企画された。



#### ■ 東京プロモーション（恵比寿駅構内 2/28）

- ・ 今年度制作した映像放映やライブ、トークショーなどで 3 村の PR を行った。
- ・ 持参したパンフレット 4,700 部を配布した。

## 制作映像内容

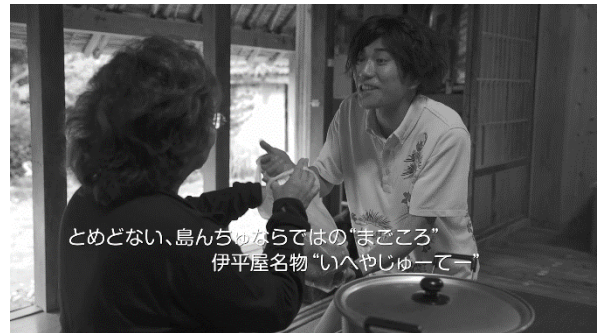
伊是名村:58秒

- 民家で夜な夜な開かれるオープンな飲み会「のみじゃー(飲み座)」を、伊是名村のゆるキャラ尚円くんがレポートするという内容。
- 民泊受入家庭の民家さんに、実際にのみじゃーを開催してもらい、その様子を撮影した。



伊平屋村:1分15秒

- その日釣った魚や採れた野菜、料理等が多くあった時、親戚や近所の人におすそわけをする伊平屋島ならではのおもてなし「いへやじゅーてー」の様子を撮影。
- 伊平屋村の人たちの、地域に根付くホスピタリティをPRできるような動画を作成した。



今帰仁村:1分1秒

- 日本人カップル、外国人カップル、女子2人旅の3組が今帰仁村にある同じ民家に民泊をするという設定。
- 今帰仁村の観光スポットと、村民ならではのおもてなしをPRする。



## 【東海岸エリア】

連携プロジェクト名称	大人の民泊推進プロジェクト
関係市町村	名護市（久志地域）、国頭村、東村、宜野座村、金武町
市町村（担当部局名）／ 関連団体名	名護市商工観光課、国頭村企画商工観光課、東村企画観光課、宜野座村観光商工課、金武町産業振興課 久志地域交流推進協議会、合同会社結くにかみ、NPO 法人東村観光推進協議会、一般社団法人宜野座村観光協会、NPO 法人雄飛ツーリズムネットワーク
代表窓口団体	久志地域交流推進協議会

### 【平成 28 年度の実施内容及び成果】

#### 【平成 28 年度実施内容】

- 情報発信のため WEB 制作
  - ・ 更新できるサイト制作、広告導線確保
- 専門家招聘
  - ① 本田勝之助氏（地域プロデューサー）
  - ② セソコマサユキ氏（沖縄 Clip 編集長）
- 受入民家の体制づくり情報収集
  - ・ 新ターゲット「キッズリゾート」に向け体制作りと内容の整備
- 5 市町村観光資源見学ツアー（3/2.3）

#### 【H28 年度の成果】

- 専用 WEB ページ
  - ⇒ 東海岸の魅力やエリア内の民家情報のデータベースを掲載した WEB ページにより、今後の連携による情報発信が可能となった。
- 専門家招聘による PR の技術的視点
  - ⇒ 専門家の講習を受け、地域プロデューサーや情報発信に関する視点や撮影に関する視点を今後の情報発信に活かす。

#### 【今後の課題】

- エリアの連携体制で地域の PR を図り、大人の民泊の販売を促進
- ホテルへ連携を深め、キッズリゾートや民泊の商品化を検討



- 地域プロデューサーの専門家招聘 12/27
  - ・ 本田勝之助氏（地域プロデューサー）を招聘し、民泊のターゲットやキャッチフレーズなどの指導を受けた。



- 編集の専門家招聘 1/26
  - ・ セソコマサユキ氏（沖縄 Clip 編集長）を招聘し、エリアが更新していく WEB の写真や映像について講習を受けた。



- 視察見学ツアー（3/2.3）
  - ・ 各エリアの観光資源を見ることで、東海岸周遊ルート商品化について、見せ方に課題があると認識した。

図 制作した WEB ページ

URL : http://minpaku.yanbaru-tour.net/

広告ページ

http://www.tabirai.net/sightseeing/special/yanbaru-eastcoast/



やんばる東海岸で暮らしやすい旅する  
民泊(ホームステイ)の楽しみ方



民泊とは？

沖縄の日常生活と大自然を満喫できるやんばる東海岸でおやすみの旅「民泊」。民泊とは旅行客などが、一般の民家に宿泊すること。その地域の暮らしや文化を体験しながら、地元の民と交流することによって、やんばる東海岸では、その自然を存分に生かした体験が楽しめる。家族のような交流ができる民泊を紹介。また、今回紹介する民泊施設は、行政のバックアップがあるので安心して宿泊できる。



## 【北エリア】

連携プロジェクト名称	世界自然遺産登録に向けた地域振興事業
関係市町村	国頭村、大宜味村、東村
市町村（担当部局名）／関連団体名	国頭村企画商工観光課、大宜味村企画観光課、東村村企画観光課 合同会社結くにがみ、NPO 法人おおぎみまるとツーリズム、NPO 法人東村観光推進協議会
代表窓口団体	NPO 法人おおぎみまるとツーリズム

### 【平成 28 年度の実施内容及び成果】

#### 【平成 28 年度実施内容】

##### ■世界自然遺産登録に向けた PR

- ①JTA 機内誌「Coralway」掲載 3/1 発行
- ②配布用パンフレット制作
- ③3村共通ロゴマークの制作
- ④横断幕制作
- ⑤雑誌「おきなわいちば」57号に掲載

##### ■旅行社訪問

東京方面：2/9～2/12

関西方面：2/13～2/15

##### ■専門家招聘：2/23

山田桂一郎氏講演会「世界自然遺産と地域振興」

#### 【H28 年度の成果】

##### ■世界自然遺産登録を目指す地域として認知度向上

⇒JTA 機内誌掲載（3/1 発行）により、世界自然遺産登録を目指す地域として認知度向上を図る。

##### ■地域の PR ツール

⇒パンフレット、ロゴマークの製作、横断幕などにより、今後の PR 活動に活用  
横断幕は海洋博、許田インター、JA に設置

##### ■世界自然遺産登録に向けた気運の高まり

⇒①～④の PR ツール製作を協働で取り組むことにより世界自然遺産登録に向けた気運や連携の意識が高まっている。

### 【今後の課題】

- エリアの連携体制で世界自然遺産登録に向けた PR や受入体制の整備を図っていく。



#### ■企画会議の開催

- ・昨年度のプロジェクト実施に引き続き、エリア連携による企画会議を行っている。協働で取り組む中で世界自然遺産登録に向けた気運や連携の意識が高まっている。



#### ■専門家招聘 2/23 山田桂一郎氏

- ・世界自然遺産登録で地域振興するためには、地域の課題を解決させないと、地域振興に結びつかないと話された。

図 制作物

①JTA 機内誌「Coralway」



②配布用パンフレット



③ロゴマーク



④横断幕



⑤「おきなわいちば」57号



### (3)成果と課題

#### ①事業の成果

##### ■連携の促進

- 連携体制の必要性、機能、役割分担などについて、エリアの取組みを通し、やんばる地域全体のことを考えることで、さらに連携の必要性を認識する機会となった。
- 各エリアの企画会議では、平成 29 年度以降の自立に向けた取組みが主な検討内容となっており、連携の維持と事業化に向けた意識が高まっている。
- 複数の市町村が各エリアの取組みで、相互の人的ネットワークが強化され、連携の意識が育ったことは、当事業の大きな成果である。

##### ■事業化の課題明確化

- 「(仮称)やんばる観光市町村等連絡協議会」の設立に向け、準備会の発足が確認された。
- 5つのエリアで、昨年度の連携プロジェクトを踏まえ、それぞれ事業化・商品化に取り組むにあたっての可能性と課題が明らかになった。

#### ②事業の課題

##### ■自立運営に向けた取組み

- 「(仮称)やんばる観光市町村等連絡協議会」については、自立運営が課題とされており、WEB サイトや案内コーナーの運営を維持拡大しながら、収益事業の創出による財源確保を進める必要がある。
- 各エリア連携プロジェクトは、事業化のための営業活動を引き続き行い、地域への経済効果を高める取組みとして発展、定着させていく必要がある。
- 各エリアで事務局機能を持った場合の協力体制、営業方法、利益配分、負担金などを検討する必要がある。

##### ■事業化の検討

- 情報発信やプロモーション、ニーズ調査などの取組みを今後継続していくためには、事業の採算性を検証し、事業内容・事業規模などの明確化とともに、財源の確保においては、様々な制度の研究に加え、WEB サイト等を活用して、観光客や県民のサポーターを確保していくような取組みを検討する。
- エリア別で取組んだ商品化の検討に伴い、事業採算をシミュレーションする段階であり、窓口も含め、どれだけの人数を誘客し、どの程度の規模の商品を市場として考えているのか検討する必要がある。事業計画は、各エリアから商品価格などを含めた形で検討する必要がある。

## 第2章 情報集約・発信

---

### 2-1. 情報サイトの充実強化

#### (1)目的

平成 24 年度事業において、情報の集約・発信の必要性があげられ、平成 25 年度にはやんばるの観光情報を発信する WEB サイトを制作し、情報収集・発信の仕組みを作ってきた。

平成 25 年度に制作した WEB サイト(沖縄北部観光情報コミュニケーションサイト)では、「情報の更新」に重点を置き、最新情報、現地情報の投稿の仕組みを作ってきた。これらの結果を受け、平成 26 年度は Facebook ページの開設、「やんばるイベント」アプリダウンロードの開始、「やんばるの観光」リーフレットのダウンロードの開始(日本語・英語・中国語・韓国語)、「やんばる Drive SHOPPING&GOURMENT」ページの開設を行った。

平成 27 年度には、さらなる情報集約・発信強化のための取組みとして、Facebook への投稿を1日2回に増やし、またインバウンドへの対応として、中国語に翻訳した記事を掲載した。

WEB サイトは、Facebook から誘導する目的のためリニューアルを行った。WEB サイト上に直接記事を投稿できるシステムを整備し、それを Facebook とリンクさせることで WEB サイトへの誘導を促進した。

これらの結果を受け、平成 28 年度は情報サイトの更なる充実・強化を図り、アクセス数の増加を図った。

#### (2)実施概要

平成 25 年度に開設した本事業の専用 WEB サイト「沖縄北部観光情報コミュニケーションサイト」の充実を図るため、下記の取組みを実施した。

##### ①WEBサイト強化のための取組み

- a. WEB サイトトップページ画面変更
- b. WEB サイトへの誘導
- c. WEB サイトの記事カテゴリー検索
- d. エリア別プロジェクトページとの連携
- e. インバウンドへの対応
- f. Twitter アカウントの作成

##### ②利用実績

- a. WEB サイトアクセス状況

##### (訪問数)

- WEB サイト「沖縄北部観光情報コミュニケーションサイト」について、平成 28 年 10 月からの訪問数を項目別に見てみると、最も多いのは SNS である。
- WEB サイトでの情報取得については、ページビュー(ページ閲覧数、以下 PV という)数が多いほど、ページにとどまって多くの情報を取得しているものと推測できる。Facebook から誘導する前の 11 月 PV 数は 20,000 までであったが、Facebook から WEB サイトへ誘導後は毎月 30,000 を超えている。また、アクセス数も 9,000 を超えている。



- 6月にTwitterを加え、FacebookとTwitterからWEBサイトへ誘導するシステムにしたことにより、12月からSNSからのアクセス数が急激に伸びているが、その後、Facebookから誘導する投稿記事が少なく、またFacebook記事の反応が低かったためアクセスも減少した。

図表 沖縄北部観光情報コミュニケーションサイトへの項目別アクセス数

月別	アクセス数					PV		直帰率	新規率	1件当たりの滞在時間(分)
	① 検索エンジン	② SNS	③ リンク	④ 直接入力	⑤ 合計	⑥ 月別PV	⑦ PV数/件			
10月	2,264	105	110	510	2,989	12,398	4.1	80%	37%	1:44
11月	2,863	2,620	123	647	6,253	20,528	3.3	75%	37%	1:04
12月	2,203	12,199	105	1,409	15,916	47,407	3.0	53%	30%	0:48
1月	2,600	11,149	192	1,188	15,129	47,554	3.1	49%	24%	0:51
2月	2,402	5,633	343	829	9,207	31,391	3.4	85%	54%	1:01
合計	12,332	31,706	873	4,583	49,494	159,278				

項目別カウント ※2017年2月28日までの集計

- ①検索エンジンからの訪問者数
- ②ソーシャルメディアからの訪問者数
- ③他のサイトリンクからの訪問者数
- ④ブラウザのブックマーク、URL 直接入力、メールにある URL リンクをクリックした数
- ⑤月間アクセス数の合計
- ⑥月間PV 閲覧ページ数
- ⑦PV 数/件：アクセス1件あたりのPV数

図 項目別アクセス数

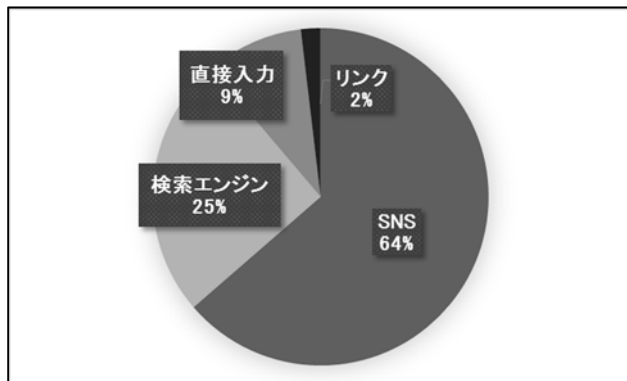
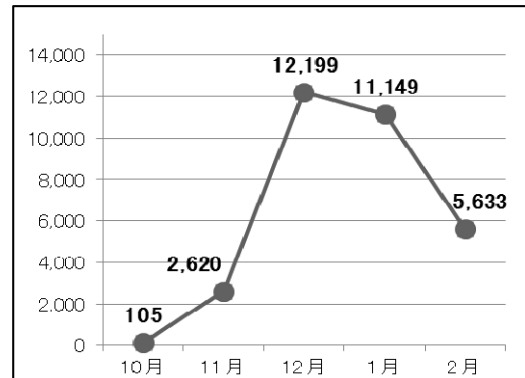


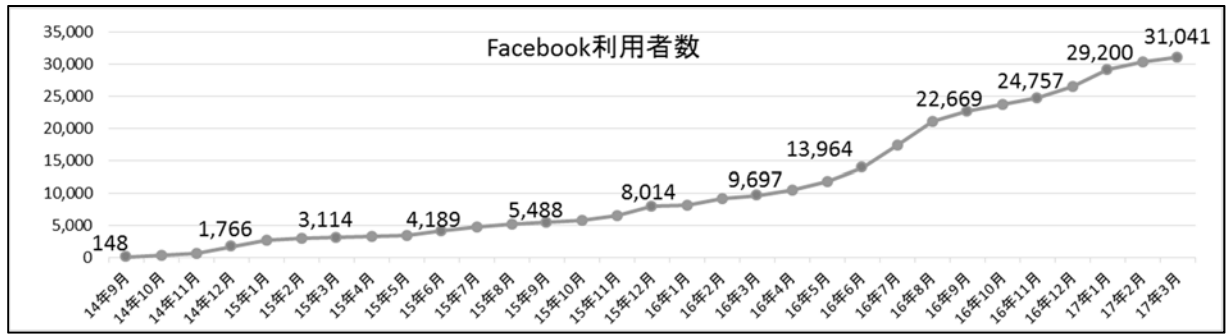
表 SNSからのアクセス数



#### b. Facebook「いいね！」件数

- Facebook ページへの「いいね！」数は、平成 28 年3月 20 日時点での 9,439 件から、平成 29 年 3月 15 日時点で 31,041 件となっており、約1年間で 21,602 件増加した。
- Facebook ページの外国人閲覧者は 3,150 人と利用客全体の約 10%を占め、その中でも台湾人が 60%以上を占めている。
- 利用者(閲覧者)の数を男女別年齢別に見ると、男女別では女性が若干高いもののほぼ同数となっている。年齢別だと 35-44 歳が最も多く、次いで 45-54 歳となっており、主に子育て世代が利用していることがわかる。
- Facebook のリーチ(拡散数)については、4 万人を超えることもしばしばであり、記事によっては 10 万人以上に拡散することができた。

図 Facebook ページへの「いいね！」の数



Facebook 3月15日時点「いいね！」31,041件  
集計期間（2014年9月17日～2017年3月15日）

表 外国人利用者

外国人全体	台湾	北米	香港	東南アジア	欧州	南米	韓国	その他
3,150	1,962	386	258	176	81	88	79	120
	62%	12%	8%	6%	3%	3%	3%	4%

Facebook 2017年3月15日時点

図 Facebook ページ利用者(男女別、年齢層別)

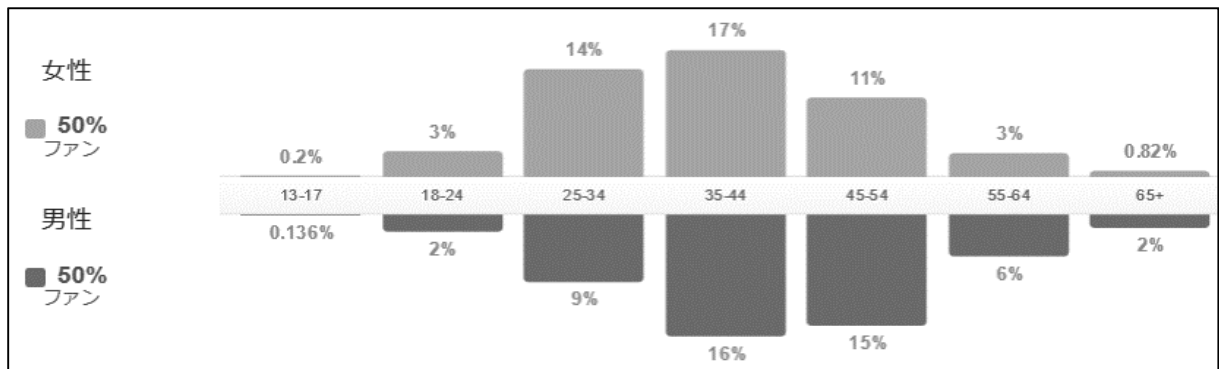
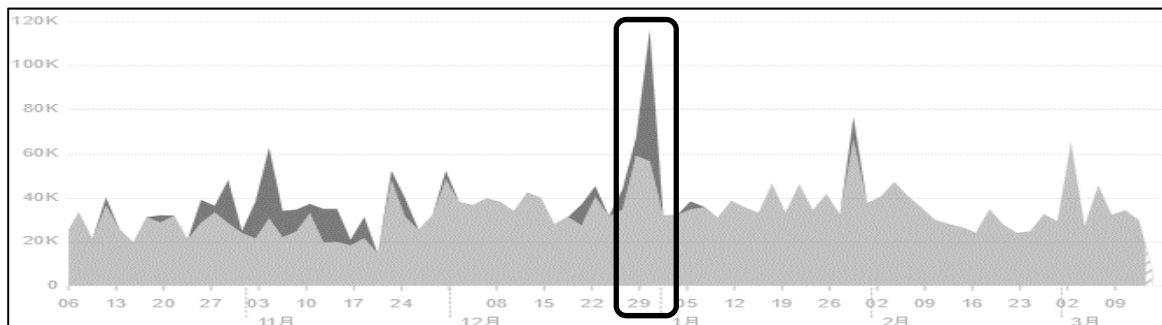


図 Facebook 投稿記事のリーチ数



Facebook 3月15日時点「リーチ数」  
集計期間（2016年10月6日～2017年3月15日）

資料：Facebook ページ インサイトより

図表 沖縄県 Facebook 利用者数別 Facebook サイト順位(2017年3月15日時点)

	名称	利用者	内容	取扱情報範囲
1	沖縄Clip	563,369	沖縄観光情報	全県
2	DFS	302,212	免税店	
3	沖縄likes	120,618	沖縄観光情報	全県
4	はいむるぶし	111,802	リゾートホテル	小浜島
5	たびらいおきなわ	78,651	沖縄観光情報	全県
6	A&W	64,548	ファーストフード	
7	沖縄(はいさい 沖縄)	64,285	沖縄観光情報	全県
8	カヌチャリゾート	63,844	リゾートホテル	名護
9	海洋博公園 美ら海水族館	56,159	施設	美ら海水族館
10	宮古島style	43,768	沖縄観光情報	宮古島
11	沖縄タイムス	34,871	新聞	全県
12	沖縄北部観光情報コミュニケーションサイト	31,041	沖縄観光情報	北部やんばる
13	沖縄美ら島財団	29,827	施設など情報	全県
参考	琉球新報	27,520	新聞	全県
参考	OTV 沖縄放送	18,297	テレビ	全県

資料：Website「Facebook ランキング」より作成

### (3)成果と課題

#### ①事業の成果

- 「沖縄北部観光情報コミュニケーションサイト」の Facebook は利用者数が3万人を超え、県内外の方に北部やんばるの情報を提供できるようになった。また沖縄全県で12位まで上昇し、沖縄の有力な情報発信サイトとしての地位を確立しつつある。
- Facebook の外国人利用者も増えており、約 3,150 人と全利用者の1割が外国人利用者となっている。

#### ②今後の課題

- 今後の WEB サイト自立に向け、営業及び運営方法や収益方法を検討する必要がある。特に事業採算シミュレーションについてを実施し、短期的に終わるものではなく中長期的な事業継続の見通しが必要である。
- 今後も情報の集約、Facebook 等を活用した最新情報の提供、国内外の観光客への PR とコミュニケーションをさらに充実させる。
- WEB サイトに直接投稿した記事を Facebook に同時掲載しているが、効果的なリンクの方法を検証していく必要がある。
- Facebook 閲覧者のニーズを把握・分析し、やんばるへ訪れる方がどのような情報を求めているかを精査し、より情報力のある記事を投稿していく。
- 地域の事業者や発地側の事業者と連携を図り、やんばるの情報発信基地として、事業者と観光客双方にとって有益な情報を発信し、人をつなげる役目を検討する。
- SNS の情報発信は非常に有効であるが、Facebook などは年齢層が限られるため、他の SNS なども起用し、20代前半の若者にも発信できるよう方法を検討する。
- SNS に投稿した内容で、どの程度効果が現れるのか、実際にお店に行き利用された等を検証する必要がある。

## 2-2. 情報拠点の充実強化

### (1)目的

平成 24 年度事業において情報の集約・発信の必要性があげられ、平成 25 年度にはやんばるの観光情報を発信する「やんばる観光案内コーナー」を設置、平成 26 年度には利用者がさらに利用し易いように、観光案内コーナーの充実強化を図った。平成 27 年度は、情報発信をする側であるガイドが、より観光案内コーナーで情報提供をし易いように、体験学習やお勧め観光地のフライヤー作成などを行った。

「やんばる観光案内コーナー」では、観光客のニーズ把握に重点を置き、案内ガイドによる報告でその傾向を把握してきた。概ねの傾向は、美ら海水族館など主な目的地を訪問する前後の時間で回ることのできる観光地や飲食店の紹介、やんばる各地への距離や時間に関する情報、季節のイベントに関する情報ニーズが高いことが確認された。

これらの結果を受け、平成 28 年度は情報拠点「やんばる観光案内コーナー」のさらなる充実強化を図り、観光客のやんばる周遊を促した。

### (2)実施概要

平成 25 年度に道の駅許田道路情報ターミナル内に設置した「やんばる観光案内コーナー」の充実を図るため、下記の取組みを実施した。

#### ①やんばる観光案内コーナー充実強化の取組み

- a. 案内ガイドの配置継続
- b. ハイサイプラザでの出張「やんばる観光案内所」
- c. 大型地図リニューアル
- d. インバウンド対応の充実と多言語サインの導入
- e. 「やんばるゴールデンツアー（フライヤー）」の充実
- f. 観光ガイドの体験学習
- g. フリーペーパー「たびカタログ」「朋友」への掲載

#### ②利用実績

「道の駅許田観光案内コーナー」

- 平成 28 年度は、7月1日～平成 29 年3月 15 日までの期間で 90,167 人の利用があり、1日当たりの平均利用者数は 351 人／日となった。（ガイドによる来場者数のカウントによるもの）
- 平成 27 年度との比較では、平成 27 年 7 月1日～平成 28 年3月 15 日までの期間で 86, 250 人の利用があり、1日当たりの平均利用者数は 336 人／日となった。今年度は平成 27 年度よりも増加した。

「ハイサイプラザ」

- 利用は合計 5,819 人に利用されそのうち外国人客は 2,073 人が利用し、全体の約 36%を占める結果となった。

表 平成 28 年度月別来場者数(人)

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
観光案内コーナー	11,939	12,572	9,928	9,964	8,378	11,508	13,248	8,129	4,501	90,167
日平均利用者数	385	406	331	321	279	371	427	301	300	351

※ 期間:平成 28 年7月1日～平成 29 年3月 15 日、※ 合計欄の日平均利用者数は稼働日 257 日で計算。

表 平成 27 年度との比較

	平成 27 年度	平成 28 年度	備考
7月1日～3月15日 来場者数(人)	86,250 人	90,167 人	前年比 5%増
1日平均来場者数(人/日)	336 人/日	351 人/日	同期間の平均人数/日
1日最大来場者数(人/日)	564 人/日	911 人/日	

表 ハイサイプラザ来場者数(期間:12月19日～1月15日)

	全体			外国人						外国人の 占める割合
	午前	午後	合計	台湾香港	中国本土	欧米	韓国	その他	合計	
合計	2,689	3,130	5,819	687	172	397	725	92	2,073	36%
割合	46%	54%		33%	8%	19%	35%	4%		

### ③観光客の問い合わせ内容

- 「やんばる観光案内コーナー」では、ガイドにより観光客からの問い合わせを日報に記録している。
- 最も多い問い合わせは「観光関連」で全体の 68%となっており、その中でも特に「観光地/目的地までのルート案内」が全体の 37%を占めている。次に多いのは、「観光地/観光施設/観光スポット等」で 18%ほどである。
- 「飲食関連」は、全体の 21%となっている。内訳は「沖縄そば」、「カフェ」でもなく「その他」が大多数である。その理由はビールやステーキ、タコライスなど沖縄ならではのグルメの認知度が広がり、多様性が生まれてきているからと考えられる。

表 観光客からのお問い合わせ分類(平成 29 年2月 15 日時点)

	総数	観光関連	飲食関連	お土産関連	その他
件数	1,238 件	841 件	251 件	45 件	101 件

図 観光客からの問い合わせ分類

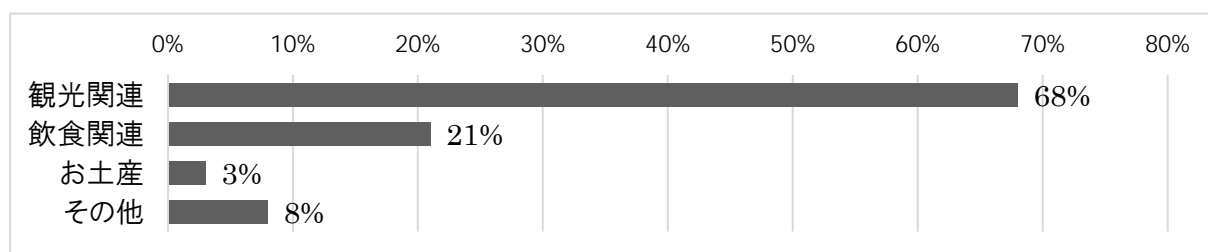


表 問い合わせ内容

案内の内容		問合せ数	割合
観光関連	観光スポット等について	224	18%
	目的地までのルート案内	461	37%
	ビーチの案内	22	2%
	体験プログラム等の紹介	47	4%
	まつり・イベント等の紹介	68	5%
	景勝地の案内	19	2%
交通	バス等に関する案内	2	0%
飲食関連	そば屋に関する案内	48	4%
	カフェに関する案内	31	3%
	その他飲食に関する案内	172	14%
お土産	農産物果物(マンゴー、パイナップルなど)	26	2%
	沖縄お菓子について	6	0%
	沖縄加工品(ガラス、やちむん等)	13	1%
その他	ホテル宿泊に関する案内	22	2%
	沖縄の風土、文化に関する紹介	77	6%
合計		1,238	100%

#### ④外国人訪問数

- 観光案内コーナーに訪問した外国人をカウントした。(n=43 日間 期間:10月6日～3月15日)
- 日本人含め全体の利用者 12,498 人のうち、外国人は 2,617 人と全体の約 21%を占めた。
- 台湾・香港・中国が約 60%を占め、35%が韓国、欧米は5%であった。
- 昨年と比較すると、台湾人の入域が増え、韓国人の入域は減少した。

表 外国人利用者数

	日本人含めた全体数	外国人(全体の内数)				外国人の占める割合
		台湾・香港・中国	欧米	韓国	合計	
合計	12,498	1,552	138	927	2,617	21%
割合		59%	5%	35%		

※10月6日～3月15日までの内、43日間外国人利用者をカウントした。

※台湾・香港・中国の内、ほとんどが台湾・香港からの観光客であり、中国人は団体旅行のため立ち寄らない傾向がみられる。

### (3)成果と課題

#### ①事業の成果

- 観光案内コーナーの利用者数は前年と比べ5%増加した。
- ガイドが体験学習をすることによって、知られていない観光地にも誘客が可能となった。
- 観光客のニーズやガイドのオススメコースを組み合わせたフライヤーを作成し、着地してからの周遊を促せることが確認できた。
- ハイサイブラザアンケート実施の結果、美ら海水族館のあと予定を決めていない人が半数であることが分かり、美ら海水族館近くで案内をすれば更にやんばるの周遊につながるものと考えられる。

#### ②事業の課題

- 観光案内コーナーの利用者を増やすためには、さらなる情報の充実に加え、広報、周知を図っていく必要がある。
- やんばるの交流人口を増やす、滞留時間を延ばすためには、一極集中している観光地から観光客を分散させることを引き続き検討する必要があり、観光案内コーナー等設置することが有効と考えられる。
- 観光案内コーナーから消費につなげるためには、観光地だけを勧めるのではなく、オススメのお土産、農産物など、聞きに来る観光客に対し消費行動に結び付けられるような仕組の検討が必要である。

## 第3章 観光プロモーション

### 3-1. 観光フェア出展

#### (1)目的

やんばるの知名度向上と12市町村が連携したPRを実証することを主な目的として、プロモーション活動を行ってきた。平成25年度は観光キャラバンを実施し、また沖縄県外の観光業界関係者やMICEを予定する企業などを対象とした「沖縄リゾート EXPO in TOKYO」に参加してやんばる観光を紹介するブースに出展した。平成26年度は昨年度同様「沖縄リゾート EXPO in TOKYO」への参加のほか、那覇空港ウェルカムホールで「やんばる観光フェア」を開催した。平成27年度は、美ら島財団と協力し「Beautiful NIPPON 全国観光PRコーナー」に参加したほか、各エリアで取組んだモニターツアーの商品造成についてアドバイスをもらうため、各エリア代表とともに旅行社訪問を行った。

平成28年度は、さらにやんばる地域をPRするために、プロモーション活動の強化を図った。

#### (2)実施概要

実際に沖縄旅行をしている方や検討している方へ、やんばる地域を訪問してもらうために下記の取組みを実施した。

##### ①やんばるの産業まつり出展

###### a. 目的

- やんばるの産業まつりを訪れた観光客や県民に、沖縄北部観光情報コミュニケーションサイトをPRするため。

###### b. 実施概要

- 沖縄北部観光情報コミュニケーションサイトをPRするため、チラシ配布を行った。

表 やんばるの産業まつり概要

名称	やんばるの産業まつり HOP!STEP!JUMP!やんばるの地域力 大・集・合!!～地産・地消・他消～
主催	やんばるの産業まつり実行委員会
場所	名護市21世紀の森体育館前駐車場
日時	平成28年10月8日(土)・9日(日) 10:00～20:00
内容	沖縄北部観光情報コミュニケーションサイトのPR
対象者	やんばるの産業まつり来場者



## ②世界のウチナンチュ大会

### a. 目的

- 世界のウチナンチュ大会に参加するために各国から訪れた日系人や、その他参加者にやんばる12市町村のPRと観光案内を主な目的として参加した。

### b. 実施概要

- 世界のウチナンチュ大会会場で開催された「うまんちゅ交流祭」において観光案内コーナーを設置し、ガイドとともにやんばるの観光案内を行った。
- 沖縄北部観光情報コミュニケーションサイトのPRを行った。

表 世界のウチナンチュ大会の概要

名称	第6回世界のウチナンチュ大会 うまんちゅ交流祭
主催	第6回世界のウチナンチュ大会実行委員会
場所	沖縄セルラーパーク那覇
日時	平成28年10月27日(木) ～平成28年10月30日(日) 計4日間
内容	やんばる地域の観光案内
対象者	世界のウチナンチュ大会 うまんちゅ交流祭来場者

表 観光案内コーナー外国人来場者数(人)

	10月27日	10月28日	10月29日	10月30日	合計
アメリカ・カナダ	63	13	15	42	133
南米	34	3	10	40	87
アジア	1	2	2	6	11
ヨーロッパ	4	2	0	0	6
日本	116	89	174	189	568
合計	218	109	201	277	805

## ③台湾旅行社との商談会

### a. 目的

- 台湾現地にて台湾の旅行社と直接交渉して集客に繋げることを主な目的とした。

### b. 実施概要

- ITF2016の開催前日に行われた商談会に参加し、台湾の旅行社に直接やんばる地域のPRと旅行商品の説明等を行った。

表 台湾旅行社との商談会の概要

名称	ITF2016 日本観光振興協会主催商談会
主催	日本観光振興協会
場所	シェラトン台北（台北喜來登大飯店）地下 2F 宴会場
日時	平成 28 年 11 月 3 日（木）
内容	台湾旅行社（4 社 8 名）と面談し、PR を行った
対象者	台湾旅行社

#### ④ ITF 台北国際旅展の出展

##### a. 目的

- 台湾の旅行社や一般人を含め、多くの来訪者にやんばるの PR を行うことを主な目的とした。

##### b. 実施概要

- OCVB が構える沖縄ブースに参加し、パンフレット配布やアンケート調査などを行い、やんばる地域を PR した。
- 12 市町村から 1 名ずつ代表者が参加し、やんばるを PR する機会の創出を目的に、OCVB と共同で取組んだ。

表 台湾プロモーションの概要

名称	2016 台北国際旅展（通称：ITF2016）
主催	財団法人台湾観光協会
場所	台北世界貿易センター 1 号館（1 階/2 階）・3 号館
日時	平成 28 年 11 月 4 日（金） ～平成 28 年 11 月 7 日（月） 計 4 日間
内容	ITF2016 来場者の方に直接やんばる地域を PR するため
対象者	台湾旅行社及び一般来場者

#### ⑤ ふるさと祭り東京 2017

##### a. 目的

- 東京近郊に住む来場者の方に対し、沖縄北部観光情報コミュニケーションサイトの PR とやんばる地域の魅力発信、観光客誘客を目的として出展した。
- 各エリアから代表者が参加し、沖縄市観光協会や OCVB、国立劇場沖縄と共同で取組んだ。

##### b. 実施概要

- ふるさと祭り東京 2017 は、東京ドームで行われた。
- やんばる 12 市町村の観光パンフレットを配布し、やんばる地域を紹介した。
- 沖縄北部観光情報コミュニケーションサイトを PR するために、フライヤーを配布した。
- ミニステージでクイズ大会を行い、正解者にはやんばるトートバッグをプレゼントした。
- 各エリア代表が参加してやんばるの知名度に関するアンケート調査を行い、回答者にはちんすこうを配布して、沖縄・やんばるの PR を図った。

表 東京プロモーションの概要

名称	ふるさと祭り東京 2017
主催	ふるさと祭り東京実行委員会（フジテレビ、文化放送、東京ドーム）
場所	東京ドーム
一般客入場料	当日券：1,600円（前売券：1,400円）
日時	平成29年1月7日（土） ～平成29年1月15日（日） 計9日間
内容	沖縄北部観光情報コミュニケーションサイトのPR やんばる地域のPR及びアンケート調査
来場者	9日間合計：40万人以上

### ⑤インバウンド PR ツール作成

#### a. 目的

- 急増するインバウンド向けに対し、国内外でやんばる観光情報を伝えるため、4言語（英語、中国語繁体字、中国語簡体字、韓国語）併記 8 ページカラー、6 万部制作し国内外へパンフレットを配布した。

#### b. 実施概要

- 国内外へ配布するため、北部 12 市町村役場及び道の駅許田観光案内コーナーへ配布し、海外へは OCVB 台湾・韓国向け、沖縄県産業振興公社シンガポール事務所へ送付した。

## (3)成果と課題

### ①事業の成果

- 昨年度までは国内のプロモーション出展のみだったが、今年度初めて国外（台湾）でのプロモーション活動を行い、世界のウチナーンチュ大会出展も含め、全体として多くの人・外国籍の方にやんばるを PR することができた。
- 台湾の旅行社に、直接地域の旅行商品を紹介することができた。
- 台湾でのアンケート調査の結果から、やんばるの世界遺産登録への取組みや、民泊に対する興味が高いことが分かった。
- やんばる 12 市町村、各エリア代表者が協力してやんばる地域を PR することができた。
- 沖縄北部観光情報コミュニケーションサイトのオフ会開催を Facebook で宣伝したところ、13 名の方に参加していただき、県外に住んでいる沖縄好きの方と交流・意見交換をすることができた。
- 4 言語併記のインバウンド向け観光パンフレットを制作し、インバウンド向けツールが出来た。

## ②事業の課題

- 台湾でのやんばるの知名度は、「知っている・聞いたことがある」を含めて47%、東京でのやんばるの知名度は、70%だった。国内での知名度は徐々に上がりつつあるので、今後は国外での知名度も向上させる必要がある。
- ふるさと祭り東京では、「やんばる」という言葉について「ヤンバルクイナなら聞いたことがある」という意見が多くあったが、「やんばる」自体が何を指すのかわかる人がほとんどいなかった印象を受けたので、「やんばる」という言葉の意味とどの場所を指すのか、広めていく必要がある。
- 台湾では、美ら海水族館以外の観光地がほとんど知られていないので、そのPR方法を検討する必要がある。
- 今後は、国内だけでなく海外へ向けたPR方法、また受け入れ時の対応について、各市町村・各エリアで検討していく必要がある。
- インバウンド向けツールの効果的な展開方法が検討課題である。

## 3-2. 農商工連携フェア「やんばるほおぼるカーニバル」の開催

### (1)目的

- 沖縄県産食材・県産品の魅力を発信・販売・PR をするイベント「島いろマルシェ」のノウハウを活用し、「やんばるほおぼるカーニバル」としてやんばる地域の特産品を販売して国内外の観光客に「やんばる」を発信した。
- 美ら海プラザを訪れた方に、やんばる地域の PR や次の目的地の紹介を行った。

### (2)実施概要

- やんばる地域の加工品や食材を用いた商品の魅力を伝えるため、試飲試食等の PR や商品のテスト販売、通信販売の紹介等を行った。
- やんばるほおぼるカーニバル来訪者に対し、やんばる地域の PR や次の行き先の提案をするために観光案内コーナーを設置した。
- 地域の PR や会場に足を止めてもらうために、大宜味村「しーちゃん」や本部町「ぶともー」のゆるキャラを使用した。

表 参加店舗一覧

店舗名	所在地
株式会社いじま家族	伊江村
わんさか大浦パーク	名護市
伊豆味みかんの里	本部町
羽地の駅	名護市
道の駅 許田	名護市
おきぼたショップ	名護市
農業生産法人(株)あいあいファーム	今帰仁村
やんばる観光案内コーナー	名護市

表 やんばるほおぼるカーニバルの概要

名	やんばるほおぼるカーニバル
主催	北部広域市町村圏事務組合
場所	海洋博公園美ら海水族館（総合休憩所 美ら海プラザ内）
日時	平成 28 年 12 月 17 日（土） ～平成 28 年 12 月 18 日（日） 計 2 日間
内容	やんばる地域の加工品や食材を用いた商品の試食・販売
対象者	美ら海プラザ来訪者
来場者数	1 日目：2,360 人 2 日目：2,143 人 2 日間合計：4,503 人
売上総額	956,525 円／2 日間（全 7 店舗） ※ 1 店舗あたり 136,646 円／2 日間

### (3)成果と課題

#### ①事業の成果

- 来場者数は2日間で 4,500 人を超え、県内でも最も観光客の訪れる場所の1つである美ら海水族館に隣接する施設でイベントを開催することで、沖縄県民や多くの観光客の方にやんばる地域の特産品を PR することができた。
- ゆるキャラを使った宣伝をすることで、多くの子ども連れの観光客や海外の観光客の方をイベント会場内に誘導することができた。
- 通訳ガイドを配置し、海外の観光客の方にもきちんと対応することができた。
- 安価で手軽に食べられる商品や、沖縄らしい商品を購入する方が多いことが分かった。
- 出店者は来場者と直接話しをすることができたので、商品のこだわり等を詳しく説明することができた。来場者も興味を持って、話が弾んでいる姿が多く見られた。
- やんばる地域の知名度は、「知っている・聞いたことがある」を合わせると 82%と非常に高い結果を得ることができた。
- 美ら海水族館の後、次の目的地が決まっていない人が 23%と、予想より多いことが分かった。

#### ②事業の課題

- 開催時期が年末ということで、参加できる店舗が少なかった。また、時期によって旬の食べ物が異なるので、今後は開催時期を検討する必要がある。
- 次回のイベント開催時には、各市町村にスポットをあて、市町村ごとの写真展のブースを設ける等やんばるの観光資源を PR し、やんばる周知のための工夫をしながらイベントを展開していく必要がある。
- 今後イベントを開催するにあたり、やんばる各地域の物産店・直売所、商工会等が連携する必要がある。
- 会場レイアウトについて出店者から様々な意見があったので、次回開催時にはレイアウトも工夫する必要がある。

## 第4章 経済効果分析

---

### 4-1. 調査の目的

- やんばるに訪れる観光客の消費傾向の把握
- やんばる地域における観光産業の経済効果の把握
- 今後の観光産業の経済効果を向上させるための参考資料を得る
- 平成 29 年度以降の実施計画を策定する

### 4-2. 調査概要

- やんばる地域の観光産業について、経済効果を分析することで、地域の産業の中での位置づけを見える化する。

#### (1)産業連関表による経済効果分析

- 北部広域圏版の産業連関表を作成する。
- 観光消費額を基に北部地域における観光消費による経済効果の分析を行う。

### 4-3. 調査結果

#### (1)平成 27 年度沖縄県観光実態調査による北部地域入域客の分析

本項目は、沖縄県観光政策課が毎年度調査を行っている「観光実態調査」のデータを、統計法(平成 19 年法律第 53 号)第 33 条の規定にしたがって提供を受け、北部地域への入域観光客に関わる実態を明らかにしたものである。

ここでの北部地域へ入域した観光客とは、北部地域を訪れたことがあると回答した者のことである。調査で回答した者の訪問地域全体延べ数と北部地域を訪問したと回答した者の延べ数の割合が、北部地域入域率の推計となる。平成 27 年度沖縄県観光実態調査における回答者は 4,232 名であり、そのうち北部地域を訪れたことがあると回答した者は 2,164 名で、北部地域の入域率は 51.1%となった。

#### (2)観光消費額の推計と北部地域における経済効果分析

平成 27 年度沖縄県観光実態調査による北部地域入域観光客の観光消費額推計と、ウェブ調査による観光消費額推計に基づく北部地域における経済効果分析を行う。まず経済波及効果分析に必要な北部地域の消費額については、北部地域入域観光客の観光消費額推計とウェブ調査による観光消費額推計によって明らかにする。その後、経済効果分析については「乗数型の経済効果分析」と北部地域産業連関表の作成を通した「北部 IO 型経済効果分析」の二通りの分析を行うことで北部地域における観光の経済効果を把握する。

なお、使用した沖縄県産業連関表は平成 17 年のものとし、更新は今後の課題としたい。

##### ①北部地域の入域率を用いた北部地域入域観光客数の推計

平成 27 年度沖縄県観光実態調査における回答者は 4,232 名であり、そのうち北部地域を訪れたことがあると回答した者は 2,164 名であったので、その割合 51.1%が北部地域の入域率となる。その北部地

域の入域率に平成 27 年度の沖縄県観光客 793 万 8 千人を乗じることで、少なくとも北部地域を訪れたことがある観光客数を簡易的に推計することが可能であろう。

また、沖縄県観光実態調査は日本人の回答者に限定されており、沖縄県全体の観光客数ではなく日本人観光客数を乗じることも考えられるが、母数が小さくなることによってさらに過大に推計される可能性もあることから、沖縄県全体の観光客を採用することにした。

北部地域の入域率を用いた北部地域入域観光客数の推計を以下の表 3-1 に示す。

表 3-1 北部地域の入域率を用いた年間北部地域入域観光客数の推計（単位：人、％）

	北部地域訪問者	回答者全体	割合
北部入域率	2164	4232	51.1%

	北部入域率	H27 年全体	北部入域観光客数
推計観光客数	51.1%	7,938,000	4,059,034

出所：沖縄県（2016）を参考に作成

## ②北部地域入域観光客の観光消費額推計

平成 27 年度沖縄県観光実態調査において北部地域を訪れたことがあると回答した人の消費額の合計を求め、同様の回答者の数で除することによって一人当たりの観光消費額を推計する。その一人当たりの観光消費額に表 3-1 で推計した北部地域入域観光客 4,059,034 人を乗じることで北部地域入域観光客の観光消費額推計を行う(表 3-2)。

表 3-2 北部地域入域観光客の観光消費額（単位：円）

項目	回答者総額	割合	一人当たり	
a 宿泊費	27,587,180	23.5%	12,748	
b 県内交通費	11,788,221	10.0%	5,447	
c 土産・買物	33,214,679	28.3%	15,349	
d 飲食費	30,546,195	26.0%	14,116	
e 娯楽・入場費	12,010,270	10.2%	5,550	
f その他	2,345,450	2.0%	1,084	北部地域総額
合計	117,491,995	100.0%	54,294	<b>220,380,778,901</b>

表 3-2 の結果から、北部地域入域観光客を用いた観光消費額は約 2,203 億 8,078 万円となった。



### ③ウェブ調査を用いた北部地域の観光消費額の推計

北部地域の観光消費額に関するウェブ調査は㈱マクロミルに依頼し、830名からの回答を得た。「沖縄に関するアンケート」と題してスクリーニングを行い、実施時期は平成29年2月23日(木)から2月26日(日)の間で実施した。調査票は図3-1に示す通りである。

表3-3 北部地域の観光消費額 (単位:円)

項目	回答者総額	割合	中央値	
a 宿泊費	23,328,172	46.2%	24,000	
b 県内交通費	8,400,782	16.6%	6,000	
c 土産・買物	5,644,849	11.2%	5,000	
d 飲食費	8,085,169	16.0%	5,000	
e 娯楽・入場費	5,006,300	9.9%	5,000	
f その他	6,850	0.0%	3,425	北部地域総額
合計	50,472,122	100.0%	48,425	<b>196,558,722,732</b>

表3-3の結果から、北部地域における観光消費額は約1,965億5,872万円となった。ここで、一人当たりの消費額に平均値ではなく中央値を用いた。

### ④乗数型の経済効果分析

#### a. 乗数型の経済効果分析結果

表3-4 北部地域入域観光客の観光消費額を用いた乗数型の経済効果分析  
H27年度北部基礎データ

入域観光客数(人)	4,059,034
1人当たり消費額(円)	54,294
総消費額(円)	220,380,778,901
原価率(中間投入係数)	0.437
移輸入率	0.259
所得化係数	0.317
限界消費性向	0.671
乗数	1.478
直接効果(円)	220,380,778,901
1次間接波及効果(円)	105,450,089,715
2次間接波及効果(円)	75,887,017,162
総効果(円)	401,717,885,779
誘発係数	1.82

表3-4の結果から、乗数は1.478となり、直接効果を約2,204億円とすると1次間接波及効果で約1,055億円、2次間接波及効果で約789億円となり総効果は約4,017億円、誘発係数は1.82となった。

表 3-5 ウェブ調査による北部地域の観光消費額を用いた乗数型の経済効果分析

H27 年度北部基礎データ

入域観光客数（人）	4,059,034
1 人当たり消費額（円）	48,425
総消費額（円）	196,558,722,732
原価率（中間投入係数）	0.437
移輸入率	0.259
所得化係数	0.317
限界消費性向	0.671
乗数	1.478

直接効果（円）	196,558,722,732
1 次間接波及効果（円）	94,051,464,242
2 次間接波及効果（円）	67,684,011,463
総効果（円）	358,294,198,436
誘発係数	1.82

表 3-5 の結果から、乗数は 1.478 となり、直接効果を約 1,966 億円とすると 1 次間接波及効果で約 941 億円、2 次間接波及効果で約 679 億円となり総効果は約 3,583 億円、誘発係数は 1.82 となった。

⑤北部 IO 型の産業別経済効果分析

(2)の冒頭で述べた通り、今回の調査では分析期間の観点から平成 28 年 3 月に更新されたばかりの平成 23 年沖縄県産業連関表は使用せず、一期前となる平成 17 年沖縄県産業連関表から北部地域の地域産業連関表を作成し、経済波及効果を行った。

⑤では推計した北部地域の地域産業連関表に基づいた産業別の経済波及効果の結果を簡潔に示すこととする。また、北部 IO 型の経済効果分析では、LQ 法を用いて推計した北部地域の地域産業連関表と沖縄県の産業連関表を用いた分析の二通りを示し、投入する観光消費額は③で用いたウェブ調査による北部地域の観光消費額とする。

a. 観光消費の経済効果－北部地域産業連関表を用いた分析－

以下では沖縄県北部地域への観光客の増加が同地域にもたらす経済的なインパクト(経済効果)を示す。なお、分析に用いたデータおよび産業連関表は、本事業で推計・作成した北部地域観光消費額、北部地域産業連関表を使用している。

表 3-6 北部地域産業連関表と北部地域の観光消費額を用いた北部地域の経済効果分析

(単位:百万円)					
	F	第一次生産誘発	第二次生産誘発	総効果	
1	農林水産業	3275	9329	970	10299
2	鉱業	0	666	111	777
3	食料品・たばこ・飲料	3951	15659	3145	18804
4	繊維製品	1449	1623	48	1671
5	製材・木製品・家具	268	463	28	491
6	パルプ・紙・板紙・加工紙・古紙	0	321	71	392
7	出版・印刷	347	2050	498	2548
8	化学製品	0	121	54	175
9	石油製品・石炭製品	3476	8028	1333	9361
10	プラスチック・ゴム製品	0	250	54	304
11	その他の製造工業製品	1006	1010	2	1013
12	窯業・土石製品	2336	3640	156	3796
13	鉄鋼製品	0	273	45	318
14	非鉄金属	0	50	10	60
15	金属製品	0	481	98	579
16	一般機械・事務用・サービス用	0	7	2	8
17	電気機械	125	137	21	157
18	輸送機械	0	97	62	159
19	精密機械	174	257	35	293
20	建設	0	2461	594	3054
21	電力・ガス・水道	0	16916	3152	20068
22	商業(卸)	2367	11434	2408	13842
23	商業(小売)	5500	9961	3665	13626
24	金融・保険・不動産	0	28710	8298	37007
25	住宅賃貸料(帰属家賃)	0	0	4003	4003
26	鉄道輸送	0	47	17	64
27	道路輸送	5661	8705	1032	9737
28	水運	1500	2110	109	2219
29	航空輸送	0	164	201	365
30	運輸付帯サービス	0	4570	279	4849
31	通信・放送	116	5326	2308	7634
32	公務	0	430	195	625
33	その他の公共サービス	2727	4880	5198	10079
34	その他の対事業所サービス等	318	12952	3035	15988
35	物品賃貸サービス(貸自動車)	425	1942	323	2266
36	貸自動車業	12906	13476	94	13569
37	娯楽サービス	11555	11849	1319	13168
38	飲食店	20295	20295	2717	23013
39	旅館・その他の宿泊所	97417	97417	308	97725
40	その他の対個人サービス	19365	22356	1796	24152
41	その他	0	2187	383	2570
	合計	196559	322651	48178	370828

1.887

A (単位:百万円)	
雇用者所得比率(行ベクトル) × 一次誘発	
62715	

B (単位:百万円)	
消費転換係数 × 上記A	
42082	

C (単位:百万円)	
民間消費支出ベクトル(列) × 上記B	

農林水産業	571
鉱業	-1
食料品・たばこ・飲料	4518
繊維製品	496
製材・木製品・家具	38
パルプ・紙・板紙・加工紙・古紙	67
出版・印刷	261
化学製品	432
石油製品・石炭製品	1036
プラスチック・ゴム製品	56
その他の製造工業製品	180
窯業・土石製品	34
鉄鋼製品	0
非鉄金属	16
金属製品	47
一般機械・事務用・サービス用機器	13
電気機械	827
輸送機械	511
精密機械	292
建設	0
電力・ガス・水道	1588
商業(卸)	2729
商業(小売)	4106
金融・保険・不動産	3903
住宅賃貸料(帰属家賃)	4003
鉄道輸送	60
道路輸送	923
水運	151
航空輸送	539
運輸付帯サービス	203
通信・放送	1410
公務	119
その他の公共サービス	4842
その他の対事業所サービス等	1187
物品賃貸サービス(貸自動車業を除く)	25
貸自動車業	14
娯楽サービス	1409
飲食店	2960
旅館・その他の宿泊所	879
その他の対個人サービス	1632
その他	4
合計	42082

D [単位:百万円]	
自給率係数(I-M) × 左記C	

	321
	0
	2356
	37
	6
	13
	155
	17
	722
	11
	2
	25
	0
	3
	17
	0
	18
	38
	22
	0
	1582
	1493
	3325
	3864
	4003
	11
	643
	53
	171
	130
	1327
	119
	4750
	816
	16
	13
	1286
	2717
	308
	1594
	3
	31987

表 3-7 沖縄県産業連関表と北部地域の観光消費額を用いた北部地域の経済効果分析

(単位:百万円)

	F	第一次生産誘発	第二次生産誘発	総効果
1 農林水産業	3275	7970	769	8738
2 鉱業	0	477	76	553
3 食料品・たばこ・飲料	3951	13149	2646	15795
4 繊維製品	1449	1604	40	1644
5 製材・木製品・家具	268	405	19	424
6 パルプ・紙・板紙・加工紙・古紙	0	239	52	291
7 出版・印刷	347	1388	328	1716
8 化学製品	0	86	38	124
9 石油製品・石炭製品	3476	6569	1025	7594
10 プラスチック・ゴム製品	0	184	37	221
11 その他の製造工業製品	1006	1009	2	1011
12 窯業・土石製品	2336	3288	107	3395
13 鉄鋼製品	0	260	41	301
14 非鉄金属	0	37	8	45
15 金属製品	0	330	69	399
16 一般機械・事務用・サービス用機器	0	4	1	5
17 電気機械	125	132	17	149
18 輸送機械	0	50	48	98
19 精密機械	174	232	28	260
20 建設	0	1446	374	1820
21 電力・ガス・水道	0	12228	2375	14603
22 商業(卸)	2367	9143	1912	11054
23 商業(小売)	5500	8828	3144	11973
24 金融・保険・不動産	0	18243	5917	24159
25 住宅賃貸料(帰属家賃)	0	0	3527	3527
26 鉄道輸送	0	34	13	47
27 道路輸送	5661	7836	815	8651
28 水運	1500	1980	83	2064
29 航空輸送	0	106	169	275
30 運輸付帯サービス	0	3500	248	3748
31 通信・放送	116	3361	1740	5101
32 公務	0	302	154	456
33 その他の公共サービス	2727	4154	4461	8615
34 その他の対事業所サービス等	318	8145	1983	10127
35 物品賃貸サービス(貸自動車業を除く)	425	1300	186	1486
36 貸自動車業	12906	13303	63	13366
37 娯楽サービス	11555	11760	1154	12914
38 飲食店	20295	20295	2394	22689
39 旅館・その他の宿泊所	97417	97417	272	97688
40 その他の対個人サービス	19365	21561	1525	23086
41 その他	0	1436	233	1668
合計	196559	283788	38090	321879

1.638

40

A (単位:百万円)

雇用者所得比率(行ベクトル)×一次誘発	55256
---------------------	-------

B (単位:百万円)

消費転換係数×上記A	37077
------------	-------

C (単位:百万円)

民間消費支出ベクトル(列)×上記B	
農林水産業	503
鉱業	-1
食料品・たばこ・飲料	3981
繊維製品	437
製材・木製品・家具	34
パルプ・紙・板紙・加工紙・古紙	59
出版・印刷	230
化学製品	380
石油製品・石炭製品	913
プラスチック・ゴム製品	50
その他の製造工業製品	158
窯業・土石製品	30
鉄鋼製品	0
非鉄金属	14
金属製品	42
一般機械・事務用・サービス用機器	11
電気機械	728
輸送機械	450
精密機械	257
建設	0
電力・ガス・水道	1399
商業(卸)	2404
商業(小売)	3618
金融・保険・不動産	3438
住宅賃貸料(帰属家賃)	3527
鉄道輸送	52
道路輸送	813
水運	133
航空輸送	475
運輸付帯サービス	179
通信・放送	1242
公務	105
その他の公共サービス	4266
その他の対事業所サービス等	1046
物品賃貸サービス(貸自動車業を除く)	22
貸自動車業	12
娯楽サービス	1242
飲食店	2608
旅館・その他の宿泊所	775
その他の対個人サービス	1438
その他	3
合計	37077

D (単位:百万円)

自給率係数(I-M)×左記C	
	283
	0
	2076
	33
	5
	11
	137
	15
	637
	10
	1
	22
	0
	2
	15
	0
	16
	34
	19
	0
	1394
	1315
	2929
	3404
	3527
	10
	567
	47
	151
	114
	1169
	105
	4185
	719
	14
	11
	1133
	2394
	272
	1404
	3
合計	28182

産業別の経済波及効果は表 3-6 および 3-7 に示したが、ここでは表 3-5 などにしたがって、北部地域の観光消費による経済波及効果の結果を表 3-8 に示す。

表 3-8 ウェブ調査による北部地域の観光消費額を用いた北部 10 型の経済効果分析

(単位：百万円)

	第一次生産誘発効果		第二次生産誘発効果		総合効果	
	(直接効果+間接一次効果)	構成比 (%)		構成比 (%)		構成比 (%)
農林水産業	9,329	2.9	970	2.0	10,299	2.8
鉱業	666	0.2	111	0.2	777	0.2
食料品・たばこ・飲料	15,659	4.9	3,145	6.5	18,804	5.1
繊維製品	1,623	0.5	48	0.1	1,671	0.5
製材・木製品・家具	463	0.1	28	0.1	491	0.1
パルプ・紙・板紙・加工紙・古紙	321	0.1	71	0.1	392	0.1
出版・印刷	2,050	0.6	498	1.0	2,548	0.7
化学製品	121	0.0	54	0.1	175	0.0
石油製品・石炭製品	8,028	2.5	1,333	2.8	9,361	2.5
プラスチック・ゴム製品	250	0.1	54	0.1	304	0.1
その他の製造工業製品	1,010	0.3	2	0.0	1,013	0.3
窯業・土石製品	3,640	1.1	156	0.3	3,796	1.0
鉄鋼製品	273	0.1	45	0.1	318	0.1
非鉄金属	50	0.0	10	0.0	60	0.0
金属製品	481	0.1	98	0.2	579	0.2
一般機械・事務用・サービス用機器	7	0.0	2	0.0	8	0.0
電気機械	137	0.0	21	0.0	157	0.0
輸送機械	97	0.0	62	0.1	159	0.0
精密機械	257	0.1	35	0.1	293	0.1
建設	2,461	0.8	594	1.2	3,054	0.8
電力・ガス・水道	16,916	5.2	3,152	6.5	20,068	5.4
商業(卸)	11,434	3.5	2,408	5.0	13,842	3.7
商業(小売)	9,961	3.1	3,665	7.6	13,626	3.7
金融・保険・不動産	28,710	8.9	8,298	17.2	37,007	10.0
住宅賃貸料(帰属家賃)	0	0.0	4,003	8.3	4,003	1.1
鉄道輸送	47	0.0	17	0.0	64	0.0
道路輸送	8,705	2.7	1,032	2.1	9,737	2.6
水運	2,110	0.7	109	0.2	2,219	0.6
航空輸送	164	0.1	201	0.4	365	0.1
運輸付帯サービス	4,570	1.4	279	0.6	4,849	1.3
通信・放送	5,326	1.7	2,308	4.8	7,634	2.1
公務	430	0.1	195	0.4	625	0.2
その他の公共サービス	4,880	1.5	5,198	10.8	10,079	2.7
その他の対事業所サービス等	12,952	4.0	3,035	6.3	15,988	4.3
物品賃貸サービス(貸自動車業を除く)	1,942	0.6	323	0.7	2,266	0.6
貸自動車業	13,476	4.2	94	0.2	13,569	3.7
娯楽サービス	11,849	3.7	1,319	2.7	13,168	3.6
飲食店	20,295	6.3	2,717	5.6	23,013	6.2
旅館・その他の宿泊所	97,417	30.2	308	0.6	97,725	26.4
その他の対個人サービス	22,356	6.9	1,796	3.7	24,152	6.5
その他	2,187	0.7	383	0.8	2,570	0.7
合計	322,651	100.0	48,178	100.0	370,828	100.0

表 3-9 北部 10 型の経済効果分析による総効果および誘発係数など

H27 年度北部基礎データ

県表パラメータ

北部 10 パラメータ

直接効果(百万円)	196,559	196,559
1 次間接波及効果(百万円)	87,229	126,092
2 次間接波及効果(百万円)	38,090	48,178
総効果(百万円)	321,879	370,828
誘発係数	1.638	1.887

北部地域における観光消費の経済効果は、表 3-8 に示す通りである。本事業によって推計された北部地域の観光消費額は、1,965 億 5,900 万円となった(直接効果)。この約 1,965 億円の観光需要を満たすために、直接的・間接的に誘発される生産額は、3,226 億 5,100 万円となり(表 3-6 の第一次生産誘発効果)、産業別でみると、宿泊業(旅館・その他の宿泊所)への経済効果が大きく、その額は 974 億 1,700 万円で第一次生産誘発効果の約 30%を占めている。また、宿泊業以外では、金融・保険・不動産(8.9%)や飲食店(6.3%)などへの経済効果が大きくなる結果となった。

第一次生産誘発効果によって生産が増えると、それに伴って各産業で働いている雇用者の所得も増えることになり、この増えた所得の一部が消費に回るので、各産業に消費需要が発生する(第二次生産誘発効果)。第二次生産誘発効果は、金融・保険・不動産業(82 億 9,800 万円)とその他公共サービス(51 億 9,800 万円)で大きくなり、両部門で産業全体の 28%を占めることになる。第一次と第二次の生産誘発効果をあわせた「総合効果」をみると、北部地域での観光消費額(1,965 億 5,900 万円)に対して、3,708 億 2,800 万円の生産誘発効果があることがわかる。

繰り返しになるが、表 3-8 および表 3-9 から、直接効果を約 1,966 億円とすると、北部地域の地域産業連関表を用いた場合の 1 次間接波及効果で約 1,261 億円、2 次間接波及効果で約 482 億円となり総効果は約 3,708 億円、誘発係数は 1.89 となった。

#### b. まとめと今後の課題

このように、産業連関分析では「特定部門への需要の発生→各産業への波及→雇用者所得の増加→所得増加による消費増加→各産業への需要発生→…」といった一連の経済循環によって、当初観光需要額を超える生産が誘発されることになる。

上述の分析結果を踏まえて地域振興の視点でみると、今後①北部地域内の産業間連関構造を稠密する、②域内の自給率・産業別の自給率を高める、といった政策対応ができれば、北部地域で発生する観光需要を域内で循環させることが可能になるといえるだろう。そして、そうした域内での経済循環を高めることが、ひいては北部地域の持続的な発展に繋がると考えられる。

平成 28 年度「やんばる観光連携推進事業」経済波及効果等調査プロジェクトメンバー  
・経済効果等調査メンバー  
名桜大学国際学群観光産業専攻 上級准教授 大谷健太郎  
琉球大学観光産業科学部 教授 金城盛彦  
沖縄国際大学経済学部 准教授 比嘉正茂  
名桜大学国際学群観光産業専攻 上級准教授 伊良皆啓  
・経済効果等調査協力者  
(株)おきぎん経済研究所 調査研究員 當銘栄一



H28 の成果	目標の達成度と課題
<p><b>3 観光プロモーション</b>  (1) 観光フェア等への出展  ● 発地側での観光フェア出展  ⇒「2016 台北国際旅展 (ITF2016)」への出展  アンケート回収数：597 票  ⇒「ふるさと祭り 2017」への出展  アンケート回収数：772 票  ● 農商工連携フェア  ⇒「やんばるほおぼるカーニバル」と題し、各地の直売店に参加を募り 7 軒が参加した。(12 月 17 日～18 日 来場者 4,503 人)</p>	<p><b>3 観光プロモーション</b>  指標：やんばるの認知度向上のため、観光客アンケート調査で「やんばる」という地名を知っていますか？」  目標：H27 年度アンケート「聞いたことはある・知らない」21%  H28 年度目標 19%以下</p> <p>(参考※)  H28 年度実績 51% (2016 台北国際旅展実績)  H28 年度実績 17% (やんばるほおぼるカーニバル実績)  H28 年度実績 29% (ふるさとまつり東京実績)  H28 年度実績 23% (WEB アンケート実績)</p> <p>課題：引き続き「やんばる」の知名度向上及びブランド化を図る。  ※目標 19%の設定は「沖縄 EXPOinTokyo」の来場者(観光関連業者)を対象としたものである。当イベントが翌年から開催されていないため、別イベント来場者を対象にアンケート調査を実施したが、それぞれ対象が異なるので比較には注意が必要である。</p>
<p><b>4 ニーズ把握</b>  ● やんばる地域の観光産業に関する経済効果分析  ⇒地域の大学と連携し、やんばる地域における経済効果の分析を行った。  ● H29 年度以降の実施計画策定  ⇒(仮称) やんばる観光市町村等連絡協議会の役割と事業計画</p>	<p><b>4 ニーズ把握</b>  ● 経済効果分析結果  入域観光客数推計 4,059,034 人  直接効果 1,966 億円  総効果/誘発係数 3,583 億円/1.82 (乗数型)  3,708 億円/1.89 (北部 IO 表)</p> <p>課題：引き続き北部での消費を促進する。  ● 実施計画  ⇒やんばる観光市町村等連絡協議会は「準備会」を設立して設置について詳細を検討する。  ⇒H29 以降の実施計画として、エリア支援、WEB サイト、観光案内コーナーの継続により事業化を進める。</p>

表 H28 年度終了時における全体目標

H28 の成果	目標の達成度と課題																												
<p>● 北部地域各地の観光客が増加  沖縄県の観光客数  H27【年度】実績 7,936,300 人  H28【歴年】実績 8,613,100 人</p> <p>※指標数値の算出方法  H27 実績値：H27 年度の入域観光客数実績 7,936,300 人を対象に、H27 沖縄観光統計実態調査の各地の訪問率を乗じて算出した。</p> <p>H28 目標値：沖縄県観光推進ロードマップの H28 年の目標値 800 万人を基に、H27 沖縄観光統計実態調査の各地の訪問率を乗じて算出した。</p> <p>H28 推計値：H28 年(暦年)の入域観光客数実績 8,613,100 人を対象に、H27 沖縄観光統計実態調査の各地の訪問率を乗じて算出した。</p> <p>※H+28 年度の入域観光客数の発表は、例年 4 月 20 日ごろであるため H28 年度は暦年の入域観光客数と H27 の訪問率を用いて「推計値」とした</p>	<p>● 北部地域に訪れる観光入域客の増加  指標：沖縄県観光統計実態調査の各地の訪問率を参考に北部に訪れる観光客数を推計  目標：北部各地の観光客⇒H28 年度目標 各地で増加</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td rowspan="3">・本部半島</td> <td>H27 (実績値)</td> <td>3,015,800 人</td> </tr> <tr> <td>H28 (目標値)</td> <td>3,040,000 人</td> </tr> <tr> <td>H28 (推計値)</td> <td>3,273,000 人</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">・北部西海岸</td> <td>H27 (実績値)</td> <td>2,515,800 人</td> </tr> <tr> <td>H28 (目標値)</td> <td>2,536,000 人</td> </tr> <tr> <td>H28 (推計値)</td> <td>2,730,400 人</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">・北部東海岸</td> <td>H27 (実績値)</td> <td>674,600 人</td> </tr> <tr> <td>H28 (目標値)</td> <td>680,000 人</td> </tr> <tr> <td>H28 (推計値)</td> <td>732,100 人</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">・やんばる最北部</td> <td>H27 (実績値)</td> <td>531,700 人</td> </tr> <tr> <td>H28 (目標値)</td> <td>536,000 人</td> </tr> <tr> <td>H28 (推計値)</td> <td>577,100 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>課題：沖縄県の平成 33 年度の観光客目標数は、当初の 1,000 万人から 1,200 万人に上方修正された。今後も北部地域への周遊・滞在・消費を促していくことが県全体の観光振興にも必要である。</p>	・本部半島	H27 (実績値)	3,015,800 人	H28 (目標値)	3,040,000 人	H28 (推計値)	3,273,000 人	・北部西海岸	H27 (実績値)	2,515,800 人	H28 (目標値)	2,536,000 人	H28 (推計値)	2,730,400 人	・北部東海岸	H27 (実績値)	674,600 人	H28 (目標値)	680,000 人	H28 (推計値)	732,100 人	・やんばる最北部	H27 (実績値)	531,700 人	H28 (目標値)	536,000 人	H28 (推計値)	577,100 人
・本部半島	H27 (実績値)		3,015,800 人																										
	H28 (目標値)		3,040,000 人																										
	H28 (推計値)	3,273,000 人																											
・北部西海岸	H27 (実績値)	2,515,800 人																											
	H28 (目標値)	2,536,000 人																											
	H28 (推計値)	2,730,400 人																											
・北部東海岸	H27 (実績値)	674,600 人																											
	H28 (目標値)	680,000 人																											
	H28 (推計値)	732,100 人																											
・やんばる最北部	H27 (実績値)	531,700 人																											
	H28 (目標値)	536,000 人																											
	H28 (推計値)	577,100 人																											



## 5-2 今後の展開

### (1) 観光を取り巻く動向

#### ① 観光客の急増

沖縄県の入域観光客数は、外国客の急増を背景に大幅な増加を続けている。

国内客は平成 24 年度より増加傾向が続いており、平成 26 年度には 600 万人を上回り、さらに増加を続けている。これに対し、外国客は、平成 24 年度の対前年比 26.9%からさらに平成 25 年度は 64.0%、平成 26 年度 57.2%と著しい伸びを見せ、平成 27 年度は 167 万 300 人と入域観光客全体の2割を超えた。外国客は、今後も増加傾向が続くとみられている。

こうした状況から、沖縄県観光推進本部では、平成 29 年3月の第5次沖縄県観光振興基本計画の改定にあたって、平成 33 年度までの当初の目標入域観光客数 1,000 万人を 1,200 万人に上方修正している。さらに、観光収入は当初目標 1.0 兆円を 1.1 兆円、延べ宿泊者数の当初目標 4,027 万人を 4,152 万人としている。

表 第 5 次沖縄県観光振興基本計画の目標フレーム 目標年度平成 33 年度

項目	当初(H24.5)	改訂版(H29.3)
観光収入	1 兆円	1.1 兆円
入域観光客数	1,000 万人	1,200 万人
国内客	800 万人	800 万人
外国客	200 万人	400 万人
観光客 1 人あたりの消費額	10 万円	9 万 3 千円
平均滞在日数	5.00 日	4.46 日
延べ宿泊者数	4,027 万人	4,027 万人

出典：沖縄県 第 5 次沖縄県観光振興基本計画

#### ② やんばる国立公園

平成 28 年9月 15 日、国内 33 箇所目の国立公園として、沖縄島北部地域(通称:やんばる)に「やんばる国立公園」が新たに指定された。

やんばる国立公園は、国内最大級の亜熱帯照葉樹林が広がり、固有動植物や希少動植物が生息、多様な生態系が複合的に一体となった景観が特徴である。今後はやんばる国立公園を含む「奄美・琉球」として世界自然遺産登録を目指す考えで、最短で2年後の平成 30 年6月の登録を目指している。

#### ③ 本部港のクルーズ拠点化

インバウンド観光の増加の一役を担っているのが大型クルーズ船の寄港であり、平成 28 年8月から9月にかけて、本部町の渡久地港沖に「スーパースター・ヴァーゴ」(7 万 5,338 トン、乗客定員 1,960 人)が寄港した。今後も美ら海水族館やんばる国立公園などを目的地にクルーズ船の北部地域への寄港ニーズは高まることが予想される。こうしたなか、平成 29 年1月 31 日に、国土交通省港湾局産業港湾課における「官民連携による国際クルーズ拠点」の全国6港のうちの一つに本部港が選定された。選定委員会の評価のポイントは、沖縄本島北部地域の主要な出入口であり、豊富な観光資源の魅力を活かした計画であること、供用開始に向けて CIQ 機能の確保が必要であることなどが挙げられている。

## (2)今後の課題

「やんばる観光連携推進事業」では、①連携の仕組みづくり、②情報集約・発信、③観光プロモーション、④ニーズ調査という4つの取組みを柱に進めてきた。

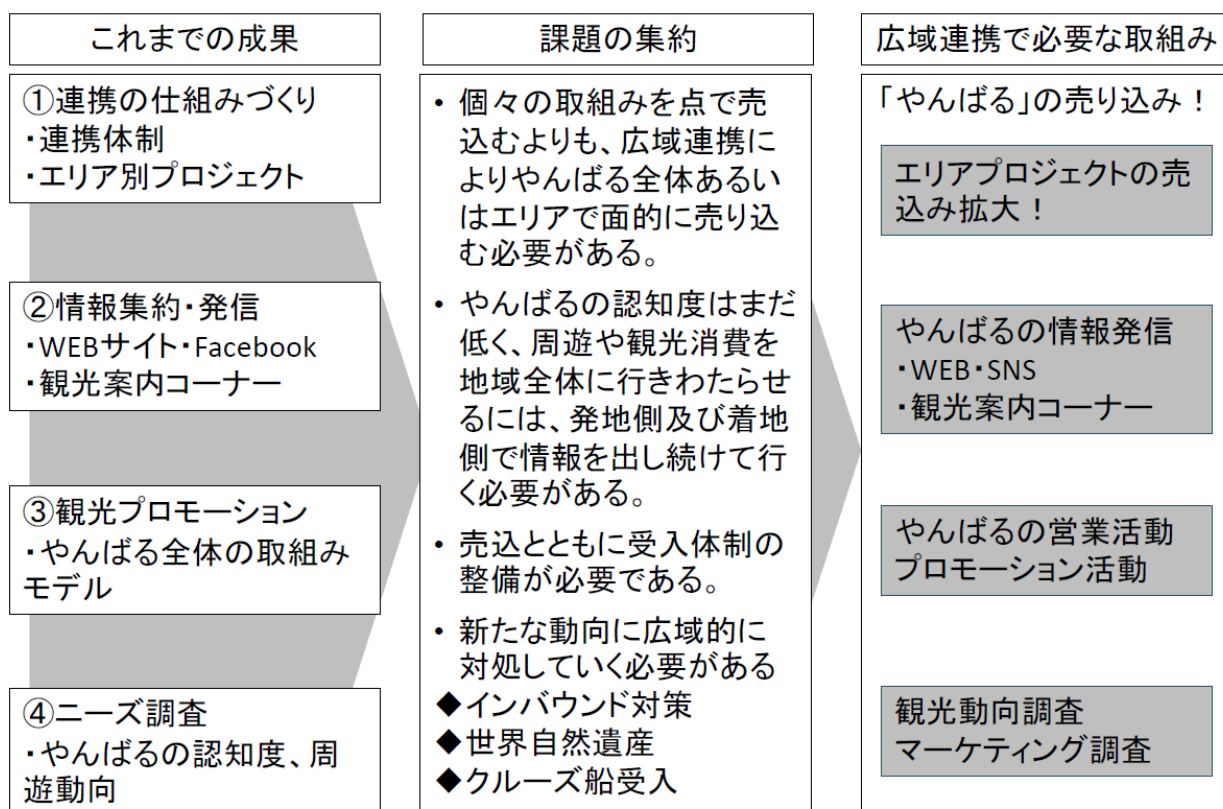
それぞれの取組みを進めるなかで、やんばる全体で、または一定のエリアで面的に売り込んでいく必要性は共有されてきた。

また、観光プロモーション活動やニーズ調査の結果から、美ら海水族館を始め、知名度の高い観光スポットはありつつも、地域としての「やんばる」に関する認知度はまだまだ低い状況にあり、増加する観光客の周遊や観光消費を地域全体に行きわたらせるには、発地側及び着地側の両方で情報発信やPRを継続していくことが必要であることが分かってきた。

今後、沖縄県の観光客数は訪日外国人の急増を背景として更なる増加が予測され、入域観光客の目標数値も当初の平成33年1,000万人から1,200万人へと上方修正されている。

こうしたことから、北部地域ではまずインバウンド対策が急務となる。さらに平成28年9月に指定を受けた「やんばる国立公園」が世界自然遺産登録を目指すことや、本部港が官民連携による国際クルーズ拠点として位置づけられることなど、新たな動向について広域的な対処が必要となる、といったことが今後の課題としてあげられる。

図 やんばる観光連携推進事業の成果と課題の集約



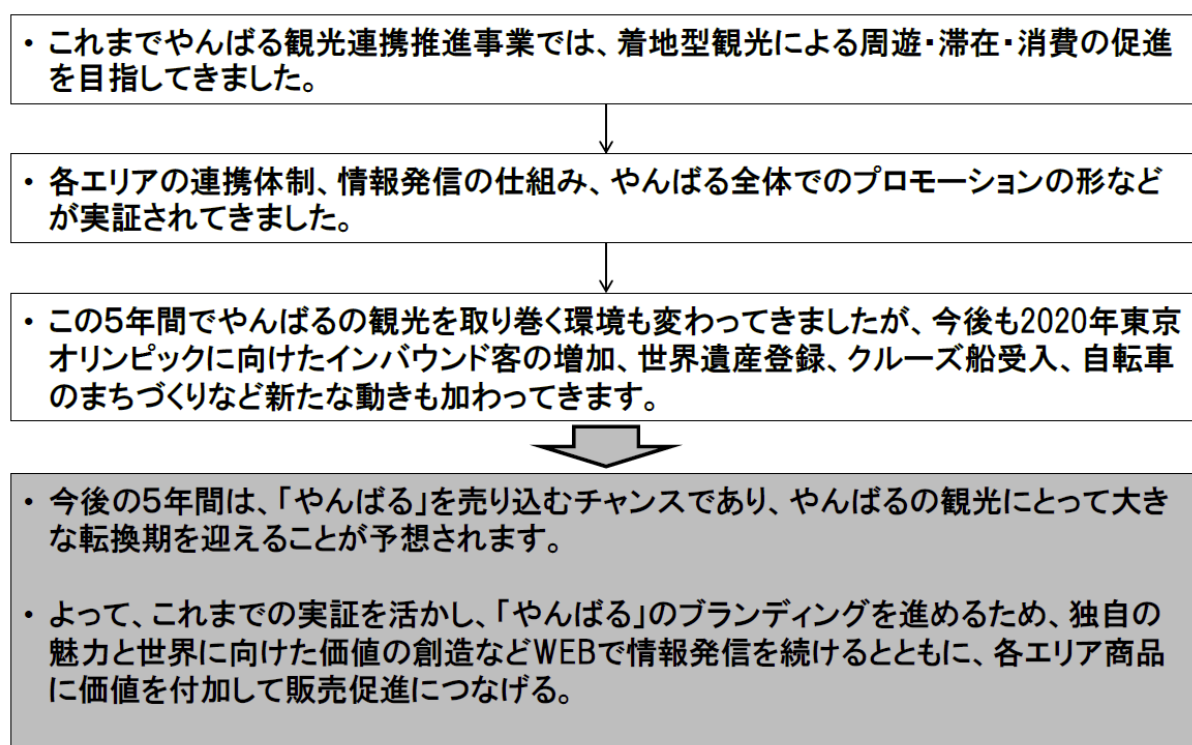
### (3)今後の取組み方針

これまでやんばる観光連携推進事業では、着地型観光による周遊・滞在・消費の促進を目指して取組み、各エリアの連携体制、情報発信の仕組み、やんばる全体でのプロモーションの形などを実証事業として行ってきた。

やんばる地域は、沖縄県の中でも自然環境が豊かで、歴史文化的な資源も多く残されている地域であるが、今年度経済効果分析に伴って行ったWEBアンケート結果をみると、地元や県内客には観光スポットとして認識されている場所でも、県外客にはあまり知られていない場所が多く見受けられる。

今後、世界自然遺産登録やクルーズ船の拠点化等により国際的にも注目が集まり、やんばるの観光にとって大きな転換期を迎えることが予想される。ただし、「やんばる」を売り込んでいくにあたっては単純に観光客を増やすだけでなく、経済効果分析結果からも課題としてあげられたように、地元の産物の地産地消を進め、モノ消費、コト消費(※)を伴った経済効果へとつなげる必要がある。そのためには単に情報発信だけでなく、地域資源の価値を高めブランド化を図るとともに、やんばるファンを増やし、満足度を高めていくよう配慮する必要がある。

図 「やんばる」の情報発信からブランディングへ



※モノ消費、コト消費とは

モノ消費：個別の製品やサービスの持つ機能的価値を消費すること。価値の客観化(定量化)は原則可能。

コト消費：製品を購入して使用したり、単品の機能的なサービスを楽しむのみでなく、個別の事象が連なった総体である「一連の体験」を対象とした消費活動のこと。

#### (4)今後の展開

今後の課題や方針を受け、今後の具体的な取組み内容を示す。

##### ①連携の仕組みづくり

###### a. (仮称) やんばる観光市町村等連絡協議会の設置・運営

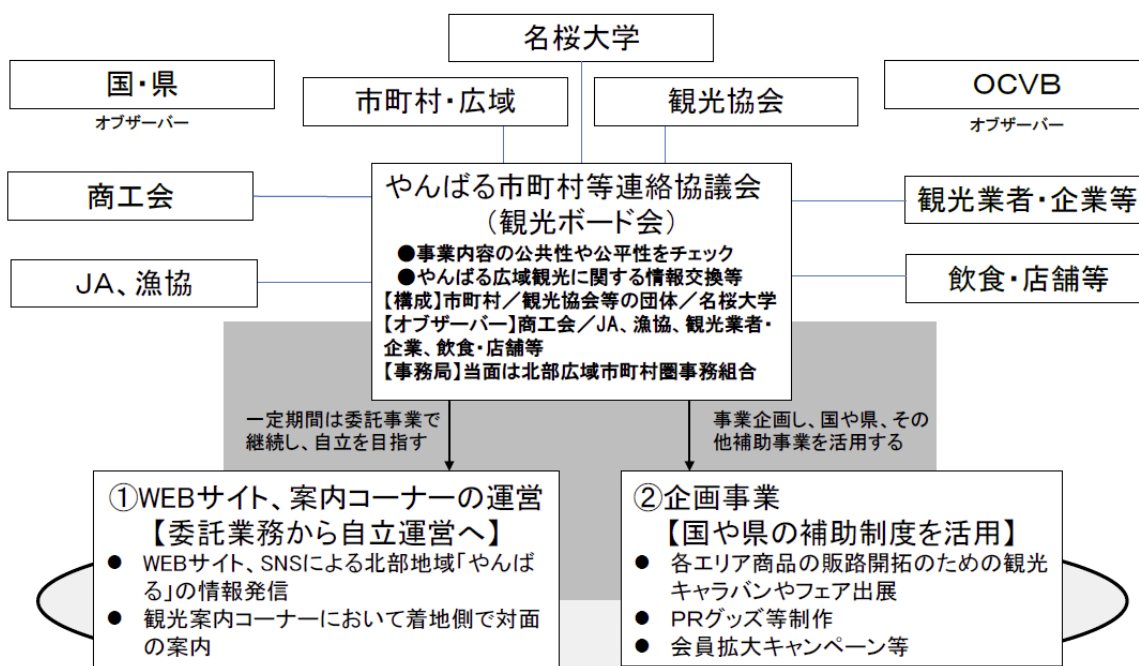
(仮称)やんばる観光市町村等連絡協議会(以下、「連絡協議会」という)の業務内容のイメージは、これまでやんばる観光連携推進事業で進めてきた取組みを継続、発展させていくことである。

設置については、平成29年度に「設立準備会」を設け、組織、運営、活動方針等、協議会の設置に伴う必要事項を定めることとする。

図 やんばる観光市町村等連絡協議会の業務内容イメージ

【組織の機能】	【内容】	【財源(案)】
情報集約・発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>●WEBサイト・SNSの管理・運営</li> <li>●観光案内コーナーの管理・運営</li> </ul>	一定期間北部広域からの委託業務として継続し自立を目指す
プロモーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各エリアの着地型商品の売込み</li> <li>●WEB会員募集キャンペーンなどの実施</li> <li>●PRグッズ等制作</li> </ul>	国、県等の補助制度活用
マーケティング調査	●WEBサイト、観光案内コーナーを活用した情報収集	WEBサイトの活用 国、県等の補助制度活用
広域連携による観光まちづくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>●広域観光の施策に関する企画及び実行</li> <li>●国や県、OCVBとの連携・調整、要請</li> <li>●広域観光に関する制度研究(DMO等)</li> </ul>	国、県等の補助制度活用

図 やんばる市町村等連絡協議会の形態イメージ



## **b. エリアプロジェクトの事業化**

各エリアのプロジェクトについては、事業化、自立化が課題となっている。これまで各エリアと企画会議等を通して連携体制ができてきており、今年度製作した PR ツールなどを活用しながら営業活動の継続を図っていく。

今後は、「連絡協議会」において進捗状況を確認しながら、事業化を目指すものとする。

プロジェクトの広報などについては、「沖縄北部観光情報コミュニケーションサイト」などを活用するとともに、国・県などの制度の活用を図りながら自立を目指す。

## **②情報集約・発信**

### **a. 情報サイトの運営・管理**

やんばる観光連携推進事業で作成した「沖縄北部観光情報コミュニケーションサイト」については、閲覧者が増加してきており、Facebook は 31,041 件(平成 29 年 3 月 15 日時点)となっている。今後も Facebook 及びその他の SNS(Twitter、Instagram 等)も活用しながら閲覧者の増加を図り、WEB サイトへの導線を強化する。

運営、管理にあたっては、「連絡協議会」において進捗状況を確認しながら、自立化を目指すため、閲覧者の追跡調査など情報発信の効果を図りながら、閲覧者及び地元の観光関連業者等の会員化を図り、有料化などを検討していく。

### **b. 観光案内コーナーの運営・管理**

やんばる観光案内コーナーは、観光客から好評を得てきた。やんばる地域一円のパンフレットの集約が進んでおり、外国人向けのパンフレットも充実してきている。

今後は、「沖縄北部観光情報コミュニケーションサイト」などと連動しながら、自立に向けた収益の仕組みづくりや国・県などの制度活用による設置を検討する。

## **③観光プロモーション**

やんばる観光連携推進事業では、平成 25 年度から「やんばる」を一体として観光フェアへの出展を行ってきた。その中で、市町村個別でのプロモーションよりもやんばる全体で行う方が、来場者に訴えやすいことが把握されている。

今後は「やんばる」のブランド化を図るためにも、やんばる全体でプロモーション活動を続けていくことが望まれる。実施にあたっては、国・県などの制度活用による実施を検討する。

## **④ニーズ調査**

やんばるへの誘客や周遊、滞在、消費拡大を目指す上で観光客のニーズ把握は継続していくことが望まれる。また、観光客の動向は社会情勢に応じて今後も変化していく事が考えられる。

このため、「沖縄北部観光情報コミュニケーションサイト」を活用したニーズ調査や、必要に応じた調査の実施を図っていく。

# 平成28年度 委員名簿

やんばる観光連携推進事業に係る副長・観光担当課長・観光協会等関係団体代表合同会議委員名簿

山里 将雄	名護市	副市長	座長
小川 剛男	国頭村	副村長	
島袋 幸俊	大宜味村	副村長	
金城 紀昭	東村	副村長	
大城 清紀	今帰仁村	副村長	
平良 武康	本部町	副町長	
外間 毅	恩納村	副村長	
岸本 宏和	宜野座村	副村長	
池原 均	金武町	副町長	
名城 政英	伊江村	副村長	
伊礼 清	伊平屋村	副村長	
奥間 守	伊是名村	副村長	

## 【12市町村】

比嘉 克宏	名護市商工観光課	参事兼課長
神山 徳夫	国頭村企画商工観光課	課長
福地 亮	大宜味村企画観光課	課長
宮田 健次	東村企画観光課	課長
我那覇 隆文	今帰仁村経済課	課長
新里 一成	本部町商工観光課	課長
宮平 寛	恩納村商工観光課	課長
金城 勉	宜野座村観光商工課	課長
安富祖 勸	金武町産業振興課	課長
万寿 祥久	伊江村商工観光課	課長
上江洲 清彦	伊平屋村総合推進室	室長
前田 秀光	伊是名村商工観光課	課長

## 【12市町村関連団体】

比嘉 重史	名護市	公益財団法人名護市観光協会	事務局長
謝花 良竹	〃	羽地ネットワーク	羽地支所長
祖慶 良太	名護市	〃	担当
崎濱 秀彰	国頭村	国頭村観光物産株式会社	観光担当
宮城 健隆	大宜味村	NPO 法人おおぎみまるととツーリズム協会	理事長

稲福 元子	〃	〃	事務局長
吉本 淳	東村	NPO 法人東村観光推進協議会	理事長
小田 晃久	〃	〃	事務局長
新城 正巳	今帰仁村	一般社団法人今帰仁村観光協会	会長
又吉 演	〃	〃	事務局長
當山 清博	本部町	一般社団法人本部町観光協会	会長
内間 仁春	恩納村	一般社団法人恩納村観光協会	事務局長
仲間 赴人	宜野座村	一般社団法人宜野座村観光協会	事務局長
奥間 尚登	金武町	一般社団法人金武町観光協会	会長
山川 宗仁	〃	〃	事務局長
古堅 幸一	伊江村	一般社団法人伊江島観光協会	会長
名嘉 律夫	伊平屋村	伊平屋島観光協会	会長
金城 洋子	〃	〃	事務局長
上間 美卓	伊是名村	一般社団法人いぜな島観光協会	事務局長
前田 辰也	〃	〃	事務局担当

【事業所管庁】

木村 栄雄	国土交通省観光庁観光地域振興部観光地域振興課	専門官
浅利 亮	〃	主査
福村 光正	〃	広域調整係 係長
熊谷 英男	内閣府政策統括官（沖縄政策担当）付政策調整担当参事官室	参事官補佐
坂本 康平	内閣府政策統括官（沖縄政策担当）付総括担当参事官室	

【オブザーバー】

小谷 和史	内閣府沖縄総合事務局運輸部企画室	国際観光調整官
石川 清秀	沖縄県文化観光スポーツ部観光整備課観光資源班	主査